

伍桃

新潟医療福祉大学 同窓会誌

No. 9 2013.3

NIIGATA UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
AN ALUMNIBULLETIN
G O T O H



特集

卒業後。仕事、子育て、再就職etc

- ・新卒業生への祝辞
- ・第12回新潟医療福祉学会
- ・国際交流
- ・ホームカミングデー
- ・学術集会
- ・卒業生の就職状況
- ・国家試験出陣式
- ・研究室Now!
- ・学友会
- ・同窓生は今
- ・佐渡県人会
- ・先輩訪問
- ・大学TOPIC

新卒業者への祝辞

Congratulatory address

新潟医療福祉大学学長
山本 正治

“石の上にも3年”

卒業おめでとう。皆さまは大学で専門分野の知識や技術を学び、さらに本学の建学の精神を身につけましたので、これから社会に出て思う存分活躍できると確信しています。

「就職後3年の離職」が問題になっています。その原因を分析したある報告書によりますと、就職後3年以上勤務を続けるか中途退職するかは、本人の仕事に対するモチベーションで決まると断定しています。モチベーションの高い人は、仕事を通じて自分自身の成長を感じることができますが、モチベーションの低い人は、現在やっている自分の仕事に対して給与が安いと感じ、また職場環境が自分に合わないと感じています。またモチベーションの高い男性は職場での適度な目標設定と評価を望んでおり、女性は他の職種との交流を望んでいると報告しています。

私はこの報告書に接し、モチベーションの高い人の特徴を表すために使われている用語が、本学の建学の精神や連携教育などのキーワードと類似していると感じました。本学の建学の精神は「優れたQOLサポーターの育成」ですが、この建学の精神によって、皆さまは専門職業人とし

て患者さんを始めとする対象者のQOLを支援しようとする高いモチベーションを持って卒業されたはずですが、先ほど紹介したモチベーションの高い女性は他職種との交流を望んでいますが、まさに本学の特徴である連携教育そのものです。

これからスタート台に立つ皆さまに対して、私が同じ年頃に大事にしていた言葉を贈ります。それは諺(ことわざ)である“石の上にも3年”です。語源は「冷たい石の上でも3年も座り続ければ石も温かくなること」です。「どんなに大変でも、じっと辛抱すれば必ず報いられること」を意味します。昔の人は「じっと辛抱すれば」と言いましたが、現代に生きる私たちにとっては、「じっとモチベーションを持ち続けられれば」であると思います。マイナス思考をするかプラス思考をするかの違いでもあります。

まとめとして、“石の上にも3年”とは、「就職後3年間、仕事に対するモチベーションを持ち続けられれば必ず報いられること」です。3年すれば必ず次の展望が拓(ひら)けます。未来の夢を信じて、人生のスタート台にお立ち下さい。

MESSAGE

新潟医療福祉大学
同窓会長
齊藤 公二

ご卒業おめでとうございます

9期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、新潟医療福祉大学同窓会の正会員になられたことを心より喜び申し上げます。

さて、改めて、本会の最も重要な役割をご説明いたしますと、それは、会員の皆様のメリットとなる情報や場の提供を行うことです。つまり、会員の皆様の希望や要望こそが、私たちの行うべき事業になります。「皆様の声で成り立つ同窓会」ということを今一度ご認識頂ければと思います。そのため、本会への参加・協力の多少によって、学科間での事業に差が

出てしまう現状があります。全学科全会員へ平等な情報等の提供ができるよう、ぜひ学科間でのネットワークの構築、各学科役員との繋がりや卒業後も絶やすことの無いようお願い致します。もちろん個人での要望等もお待ちしております。大学内同窓会支援室へぜひご連絡ください。

さらに本会の事業が充実するよう、新年度も役員一同精一杯尽力致します。どうぞよろしくお願い致します。

MESSAGE



卒業を祝して

国際交流・強化スポーツ担当副学長
渡辺 敏彦

平成25年3月に卒業する9期生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学で4年間学んだ知識・技術を駆使して社会人一年生として大活躍してくれることと確信しております。この機会に、サミュエル・ウルマン(詩人)の「青春」という詩の一節を皆さんに紹介してお祝いの言葉と致します。「青春とは人生のある期間のことを示すのではなく、心のありかたをいうのだ。(中略)ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある」即ち、挑戦する勇気と冒険心を失えば、それは青春とは言えない。皆さんには、入学時のキラキラした瞳と挑戦する気持ちを常に持ち続け、人生を青春して頂きたいと思います。

MESSAGE

自信をもって
第1歩を教育担当副学長/医療技術学部長
江原 義弘

いよいよ社会人としてQOLサポーターの第1歩を踏み出すわけですね。おめでとう。入学時には科目の履修登録にまごついた、1コマ90分授業に驚いたり、自分達だけの専用の教室がなくてさびしかったでしょう。でも基礎ゼミを通じて友人もでき、教養科目でさらに他学科の学生とも知り合え、サークル・クラブ活動やボランティア活動で信頼のおける先輩とも出会えたでしょう。専門科目で先生方の厳しさを知り、臨床実習で挫折を味わったかも知れませんが、経済的に苦しく、アルバイトで時間を取られた方もいるでしょう。再試で苦戦し、就職活動で苦戦し、国家試験勉強でも苦戦した学生もいるでしょう。でも、それらのすべてが今のあなたを作っています。入学時から大きく成長したあなたがあります。自信をもって歩き出してください。

MESSAGE

ご活躍を
祈念します地域連携担当副学長/社会福祉学部長
丸田 秋男

9期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新潟医療福祉大学で学んだことを誇りにして存分にご活躍ください。皆さんは、これから保健・医療・福祉・スポーツ等の第一線の現場で働くときに、あらためて「何を拠り所にするのか」を自分に問い掛けてみてください。それぞれの専門職像によって「何を拠り所にするのか」は異なるでしょうが、少なくとも「生命の価値」、「人間の尊厳」あるいは「社会正義」とは何かについて追及し続けることを望みます。「他者」である患者さんやクライアントの存在と、その人の人生との関係に責任を持つとする努力をとおして自己理解を深め、専門職としての「自己」のアイデンティティーを形成してほしいと願っています。そして、常に、患者さんやクライアントを第一に考えることのできる専門職を目指してください。

MESSAGE



卒業おめでとう

理学療法学科長 大西 秀明

理学療法学科卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。国家試験も終了し、後は結果を待つばかりとなりました。4年間、様々なことがあったかと思いますが、この4月からは理学療法士として病院・施設で活躍されることと思います。これからの人生、大学で培った力を源とし、自由な発想とともに積極的に行動を起こし、楽しく悔いのない人生を送られることを期待しています。今後の皆さんの健康と益々のご活躍を祈願致します。



卒業を祝して

作業療法学科長 大山 峰生

作業療法学科九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大学生活を終えるにあたり、皆さんはきっと喜びと希望で溢れ、大きな充実感を感じておられることと思います。これからの自分の未来は、自分で切り開き、創り上げるものです。自分の意思を堅持しつつ着実に前進し、是非とも目標を達成してください。その過程の中では、必ず大きな困難に遭遇します。でも安心してください。皆さんはこれまでも多くの困難を乗り越えて、今現在卒業という日を迎えているのです。これからも持ち前の力強い精神力と行動力で困難を突破してください。皆さんのご活躍を心から応援しています。



卒業を祝して

言語聴覚学科長 糟谷 政代

第9期生の皆さん、卒業おめでとうございます。4年間の大学生活は貴方にとってどのようなものでしたか？卒業式から言語聴覚士として「位置について、用意、ドン」とあなたの夢のゴールに向け一斉にスタートが切られるのです。これからの臨床現場では、教科書だけでは解決できない難問がいくつも降りかかってくるでしょう。その時に「仮説を立てて実行し検証する」という一連の過程を自らの力で進めてください。これは良き臨床家としてもとても重要な心構えです。今後とも生涯学習を継続して行ってほしいと願っております。



卒業を祝して

義肢装具自立支援学科長 東江 由起夫

義肢装具自立支援学科3期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、4年間に義肢装具ならびに福祉用具について多くのことを学んだことと思います。これは既に日本がむかえている高齢社会における福祉用具をも適合する新しい義肢装具士の教育を受けたこととなります。従って、皆さんには本学で学んだことを礎に、福祉用具の知識に長けた義肢装具士として、これからの義肢装具業界を牽引していく人材となって欲しいものです。そして本学の建学の精神“QOLサポーター”として活躍することを教員一同、切に望みます。



卒業を祝して

健康栄養学科長 斎藤 トシ子

健康栄養学科9期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。どの分野で働いていても、管理栄養士・栄養士は「食べることは生きること、生きるとは食べること」の現場、いのちの食の最前線に立ち、人々の尊厳あるよき人生に責任をもつ専門職であることを忘れないでください。自分を信じ、着実に誠実に、そして遅く幸せな人生を歩むことをお祈りしています。今後は、母校の発展や後輩の教育にも力を貸していただければ幸いです。



卒業を祝して

健康スポーツ学科長 丸山 敦夫

卒業おめでとうございます。4年間の皆さんの成長する姿を見てたいへん心強く思います。健康スポーツ学科で身に付けた専門性やコミュニケーション能力はどんな仕事についても十分に発揮できると自負しております。皆さんは大学で教員、学生同士と巡り会いました。大学時代の仲間は一生まんだとも言います。皆さん一人ひとりが持つエネルギーで周りの人を明るくしていき、たくましく、かつ、楽しく、充実した人生を送っていくことを期待しております。



ご卒業おめでとうございます。

健康科学部長/看護学科長 塚本 康子

大学での4年間の大学生活はいかがだったでしょうか。専門的な知識と技術、態度を学んだだけでなく、専門職集団の一員として仲間ができたことも大きな成果といえるでしょう。互いに刺激し合い、学び合い、成長していけることを願っています。看護学科の卒業生は元気で明るく、積極的に仕事に取り組む、と就職先の看護部長様たちが評価してくださっています。「自ら考え、積極的に行動する」看護師、そういった伝統をこれからも作ってほしいと期待しています。皆さんのご健康とご活躍を祈念しています。



9期生の皆さんへ

社会福祉学科長 伊東 正裕

社会福祉学科第9期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは、2011年3月の東日本大震災・福島原発事故など、大変な状況のなかで勉学に励み、被災者支援などにも熱心に取り組んできました。講義や実習だけでなく、社会貢献活動やサークル活動からも、貴重な経験を得られたことと思います。ご卒業後は、在学中に学んだことや経験したことを基礎に、それぞれの立場で、大いに活躍されるよう期待しています。本学科の卒業生であることを誇りにし、みなさんが幸せで充実した人生を歩まれることを心から祈ります。

同窓会
女子会

卒業後。 仕事、子育て、再就職 etc



2月9日(土)数年ぶりに同窓会の会員(卒業生)が顔を合わせました。
新潟市北区にあるトラットリア ノラ・クチーナでの座談会。
テーマは「女性の仕事・子育て・仕事復帰について」。
仕事と子育ての両立や将来についての具体的なビジョンを見ようとする時期。
それらの全く違う二人からの経験を、終始リラックスムードの中でお聞きました。



インタビューー 同窓会副会長 山口正樹(健康栄養学科2006年卒)

■ 倉田 奈緒子さん
(健康栄養学科2005年卒)

早期将来ビジョンタイプ

2005年4月(株)マツイフーズ(新潟市西蒲区)入社、食肉加工の業務に従事。その後大学時代から交際していた彼と結婚。2010年4月より産休し、2011年5月に職場復帰。



■ 及川 尚美さん
(言語聴覚学科2005年卒)

仕事・子育て熱中タイプ

2005年4月～2009年3月まで宮城県登米市立佐沼病院(※現 登米市民病院)に言語聴覚士として勤務。2009年東北大学病院(宮城県仙台市)に転職。2年後に退職し、職場で知り合った男性と結婚。2012年2月出産、現在専業主婦。再就職についての時期を悩み中。



山口：「今日は遠いところからお越しいただきありがとうございます。今日は、専門職である私たち、特に女性の子育てや仕事復帰について、お二人の経験やお考えをお伺いしたいと思っています。よろしくをお願いします。」

倉田・及川：「よろしくをお願いします。」

山口：「さっそくですが、在学中、初めて勤める職場を選ぶ時に、結婚や出産の事を考えて選びましたか？」

倉田：「私は学生の時に付き合っていた人と結婚する予定だったので、初めから相手の実家の近くをと考えていました。」

山口：「その時すでに出産や子育ての事は考えていましたか？」

倉田：「主人の実家の母が専業主婦だったので、子供の面倒は見てもらい、私は働きたいと在学中から考えていました。」

山口：「事前に会社の育休制度などは調べたりしましたか？」

倉田：「それは全く調べていなかったです。」

山口：「次に、及川さんは専業主婦になる前はどこで働いていたのですか？」

及川：「東北大学病院です。」

山口：「及川さんは、倉田さんとは違い、在学中や勤務中から結婚や出産のことを考えていたわけではないですよね？」

及川：「そうですね。私は初めての職場に4年いて、その次に東北大学病院に勤めました。結果そこでは2年間しか働きませんでした。まずは仕事!という意識があったので、結婚や出産のことを考えたのはその職場を辞めてからでしたね。」

山口：「大学病院に区切りをつけて休職している中で、結婚、出産を考え、今に至るということですね。」

「続けて及川さんに質問ですが、6年間働いて、もうすぐ30歳になると考えた時に、妊娠や出産への焦りみたいなものはありましたか？」

及川：「子供を産みたいという気持ちはずっとありましたが、仕事で経験を積み重ねばという気持ちがありましたし、まだまだ言語聴覚士人口が多くないので、そう思っていたとしても、代わりがいなければやめられない。そんな現状ではありました。特に焦りというのはありませんでした。」

山口：「確かに、専門職の難しいところなのかもしれませんね。」

及川：「全部の職場や専門職がそうではないと思いますが、同じ職場の同僚が妊娠するから順番を待つというケースもあると聞きます。」

山口：「なるほど。」

山口：「倉田さんは在学中に人生設計をある程度してから職場を決めたようなのですが、子供が生まれても仕事には戻ろうと思っていたのですか？」

倉田：「絶対に戻ろうと思っていました。」

山口：「それはどうして？」

倉田：「生活苦だから(笑)。共稼ぎじゃないと経済的に厳しいと思

いました。栄養士は専門職と言っても仕事内容の幅も広ければ待遇も全く違うので。」

山口：「それにしても同居をして、(旦那さんの)お母さんが家にいるのは安心ですね。」

倉田：「とっっても安心ですし、助かっています。来年入園する保育園の送り迎えも母にしてもらえますし。」

山口：「倉田さんは同居することで、仕事と子育てのバランスをとり、うまく両立しているわけですね。」

山口：「及川さんは仕事への復帰の予定はありますか？」

及川：「すごく今悩んでいます。子どもが生まれる前は、子供が2月生まれだから1歳過ぎた4月から仕事をしようと思っていました。でも、生まれてみると子育ては今しかない!という気持ちになり、育休を取っていただければ別ですが、私の場合は無職なので選択肢が広い分、自分で選べると思うと迷ってしまって、子育てを優先してしまい子離れが出来ない(笑)。仕事は大好きなのでいずれは仕事に戻りたいのですが、今しかない時間を優先させてしまっていて、4月復帰は本気では考えていません。次に働く場所では長く働きたいと思っているので、勤める地域も含めて考えに考えているところです。」

山口：「倉田さんは今の職場(マツイフーズ)は長いですか？」

倉田：「大学卒業からずっとです。来年9年目。」

山口：「職場を変えようとは思いませんでしたか？」

倉田：「思ったことはありませんでした。近場の地域で食品関係の会社、日曜休み。イコール今の会社という感じで選びましたから。委託の老健などだとシフト制が多いですし、今の生活にも満足していますから。」

山口：「先ほども話題に出ましたが、専門職でも働く場所が違うとやる事が全く違うということがしばしばあるので職場を変えるというのは簡単なことではないですよね。」

「続いて質問ですが、職場の育休制度はどうですか？」



及川：「皆普通に(産休・育休)取ってると思います。私の場合は公立の病院だったから当たり前のように先輩も取っていました。ただ、権利だけれど申し訳ないという気持ちもありますね。同僚の目なども気にしますし。」

倉田：「私のように代わりがいる職場はいいですけど、専門職となると厳しいですね。だからと言って取らないわけにもいかないし。」

山口：「専門職の臨時職員を産休代替として補充なんてことは？」

及川：「おそらく少ないと思います。あるのかもしれないけど主流ではないはずです。」

山口：「私たち専門職であったとしても、産休、育休を取るにもかなりの覚悟と職場の理解が必要ということですね。」

山口：「学生時代から熱心で、卒業後もバリバリ働いていらした及川さんですが、出産を期に価値観が変わったように見えますが、ご自身としてはいかがですか？」

及川：「仕事は好きですね。だから仕事をしてしまうと、仕事一筋になってしまうと思うので余計に仕事ができないということもあります。やり始めたら中途半端にはできない性分です(笑)。」

山口：「倉田さんはその辺器用にこなしているように見えますね。学生時代から変わらず明るく元気。何かコツみたいなものはありますか？」

倉田：「甘えることですね。完全に平日は(主人の)母に全てやってもらっていて、夕飯まで作ってもらっています。仕事終わりに遊んで帰るなんてこともありますし(笑)。定期的にリフレッシュさせてもらっています。」



山口：「確かに。リフレッシュする機会がないといくら子供がかわいくても疲れてしまいますよね。そういう環境を作れた倉田さんの人柄が素敵ですね。」

及川：「ストレスが溜まって自分が無理して子供にあたるのもかわいそうだし。来年度中には働きたいと思っているので、私も甘えを習得します(笑)」

山口：「ネグレクト的な感じとかニュースであるけどいかがですか？」

倉田・及川：「あり得ない!」

山口：「はい。ありがとうございました(笑)」

及川：「ちなみに子育てに比べたら、全然仕事していた方が楽ですよ。」

倉田：「休みの方が疲れる(笑)。一日中子供の面倒見ているのは本当に大変。若いうちに出産するのがいいっていう理由はこういうことかーと納得しました。」

及川：「なんで女性ばかり悩みが多いんですかね(怒)。仕事の事、体の事、育児の事とか。」

山口：「すみません…。男性の協力なしには子育ても、スムーズな女性の職場復帰はありえませんよね。」

山口：「私たちは国家資格を持っているから、他の人に比べて職場復帰しやすいし、職場選びもしやすいと思われがちですが、そのことについてはどう考えますか？」

及川：「なかなか比較するのは難しいですが、少なからず安心感があります。ただ復帰しやすいかと言われたらブランクが…」

倉田：「地域にもよると思います。都心部や新潟市だとたくさんあるけど、過疎地は募集がない。その中(地域)から選ばなければならぬとなると、細かいところまで考えられない。そんな現状だと思うので、一概には言えないですね。」

山口：「倉田さんのように在学中から人生設計をしているという人は稀な例だと思います。多くの場合、職場選びの後に結婚、出産、仕事復帰という流れでしょうか。ただ、そのあたりも意識しながら職場選びを行うことは私たち専門職としても大切なことかもしれませんね。」

山口：「話は変わりますが、育児の悩みなどはありますか？」

倉田：「4月から保育園に入れることですね。保育料!!」

及川：「何のために働いてるか分からないよね。働いてないけど(笑)」

倉田：「そうそう。貯金が保育料で持っていかれる。そのための貯蓄。」

山口：「経済的な面から子供を預けるタイミングを考えるのですね。てっきり社会性が養われるから、なんてことを安易に思っていました。」

倉田：「もちろんそれはいいかなと思いますが、毎月4、5万円かかると思うと…」

山口：「子育てのためだからこそ職場復帰をする。やはり職場復帰がスムーズに行われることが必須ですね。」

山口：「女の人が子供を産むというある程度期間(現場を)離れますよね。新採用の場合は経験して仕事を積みたいという気持ちもあるし、どのタイミングで子供を産むか難しいですよ。」

倉田：「結婚して3年目で子供ができて、その前までは子供ができなくて、産婦人科に行こうかなと思ってた時にちょうど(子供が)できて、タイミングが良かったよ。26歳で妊娠して27歳で産みました。3年もできないと親からも言われるし、職場でも触れてはいけないような雰囲気にもなるよね。」

及川：「私は子供を産んだのが29歳の時で倉田さんより遅いのですが、年齢が上がると体力的にも厳しいと思うし心配な部分はありますよね。」

山口：「働くことと出産・子育ての両方を考えるのはすごく難しいですね。男性の協力も必要になってきますし、社会環境がよくならないと女性が働くことが難しいことがよくわかりますね。」

山口：「最後に同窓生や在学生に伝えたいことはありますか？」

倉田：「就職する前に会社の育休制度の実績は調べられる範囲で調べた方がいいと思います。ずっとその現場で働きたいならなおさら。ただ、面接でそのあたりを深追いしすぎると怖いので注意してください(笑)」

及川：「大学病院もこんな(産休・育休の)実績がありましたとか。独身女性がいっぱいいますとかね(笑)」

山口：「同窓会としても先輩方からのそのような情報収集を定期的に行えるといいですね。」



山口：「及川さんからも一言お願いします。」

及川：「私は国家資格を持っているから現在無職でいてもあまり危機感がないというか、選ばなければどこかしらに就職できるという気持ちがあって、専業主婦になっていると思います。一般職に就いて仕事を辞めた友人は困っている人も多いため、それは国資保持者の強みだと思います。期せずして2年間専業主婦をやっていて現場を離れたので、戻ることには恐怖感や不安感があります。業界から2年も離れて戻れるのか。みんながスキルアップしているところについていけるかどうか、せめぎ合いです。ブランクは恐ろしいです。ぜひ復帰を考えている方、産休や育休を考えている方は、少しずつでも忘れないような努力をすることをお勧めします。私はこれから研修会等に参加して、徐々に取り戻していくつもりです。」

山口：「本日は貴重なお話ありがとうございました。」



お二人のお話を伺っていると、現在の生活を楽しまれていることがよくわかります。もちろん、うまくいかないこと、つらいこと、大変なことがあります。子どもの顔を見ればがんばれる。お二人とも同意見です。母は強い。

職場を選ぶときのポイント、いつから人生設計のビジョンを持つべきか。仕事と子育ての両立など。それらは人それぞれ三者三様なことです。ただ、今回伺ったお話からこれからの自分の人生設計のヒントを得られた人もいるのではないのでしょうか。

次回は男性の子育てについてなども企画中です。お楽しみに。

Home Coming Day

ホーム カミングデー 記念講演



平成24年10月7日、第3回ホームカミングデーが開催されました。今回はオリンピックイヤーにちなんでオリンピックメダリストの池谷幸雄氏をお招きし、「夢は果てしなく永遠に」をテーマに講演いただきました。

池谷さんの体操選手としての活躍は周知のことと思いますが、幅広い人の為に体操競技を通じて元気になってもらいたいという池谷さんの熱意は非常に感銘を受けました。また、実際に獲得したメダルを講演を聞きに来た方々に触らせていただくことができ、普段出来ない体験もさせていただきました。

タイトルにもある「夢」を持つことの素晴らしさ、何歳になっても目標を持ち続けることにより、それを実現する為の力が生まれ視野が開けてくるという言葉が印象的で、あっという間に60分の公演時間が過ぎてしまいました。

ホームカミングデーの名前が示す大学という家に戻ってくるという趣旨で始まったこの会ですが、あらためて大学に戻ってくると自分たちがいた時とは違った雰囲気や校舎の変化が味わえたり、変わらない風景を感じることができ、学生時代を懐かしく感じることができました。大学に訪れる機会も少なくなりますが、同窓生がより身近に大学を感じることができる活動を増やしていきたいと思えます。

最後になりましたが、ご講演いただいた池谷幸雄さんをはじめご協力いただいた山本学長、渡辺副学長、大学関係者の皆様に誌面を借りてお礼申し上げます。

10月7日(日)の第3回ホームカミングデーの様子をご紹介します。

第1部として体操競技オリンピックメダリストの池谷幸雄さんをお招きして講演を行いました。



12:40講演開始



約100人の方から拍手で迎えられた池谷さん



今回のテーマは「夢は果てしなく永遠に」。

講演中にメダルを回してもらい手にとって見ることもできたり、実際に首からかけてもらい池谷さんと撮影したりとメダルの重みを肌で感じる事ができました。



途中壇上から降りて、目標を持って努力する大切さを熱く語ってくださいました。

何歳になっても目標を持ち続けることにより、それを実現する為の力が生まれ視野が開けてくるという言葉が印象的で、あっという間に60分の公演時間が過ぎてしまいました。

ホームカミングデーの 交流会の様子

池谷幸雄さんの講演後、交流会を行いました。交流会は池谷さんも参加していただき、同窓生や在学生を交えスポーツと栄養についてのお話や首筋のコリをほぐすストレッチを教えていただいたりなど、有意義な時間を過ごさせていただきました。また、同窓会長が準備したスライドで講演では聞けないディープな内容を池谷さんに質問をしていただきましたが、気さくに答えていただきました。短い時間ではありましたが非常に有意義な時間となりました。同窓会ではこうした在学生と同窓生との交流の場を作りたいと考えています。参加していただいた皆さんありがとうございます。またこのような機会がありましたら是非ご参加ください。



国家試験 出陣式

同窓会から 合格祈願鉛筆贈呈

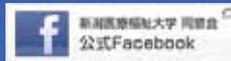
毎年国家試験を受験する在学生の皆さんの合格を祈願して、同窓会より合格祈願鉛筆を贈呈しています。今年も同窓会役員が鉛筆の文言を考え決定いたしました。受験生の皆さんに自信を持って本番に臨んでほしいと先輩の思いが込められた鉛筆です。

写真は社会福祉学科の激励会、看護学科の結団式の様子です。それぞれの学科の特徴が表れた素晴らしい会でした。同窓生3600名から激励の思いが詰まった鉛筆をお守りにして合格を勝ち取ってください。



facebook 始めました!

新潟医療福祉大学同窓会公式facebookページが出来ました!
facebookはすでに多くの方が使っている
コミュニケーションツールです。
まだの方は、これを機にぜひ始めてみてはいかがでしょうか。
facebookページを通じて同窓会からのお知らせや
相互交流を活発にしていきたいと思えます。
同窓会ホームページにあるバナーを
クリックしてfacebookへGo!



- ①とりあえず、アカウント登録をするだけで始められたのでとても簡単でした。登録内容も名前、性別、生年月日と簡単な個人情報だけでしたし、他にも色々な項目がありましたが、始めるだけなら後回しにしておけるからいいですね。
- ②検索バーに新潟医療福祉大学同窓会と入力するだけで簡単にたどり着くことが出来ました。
- ③最初は面倒なイメージがあり、あまり気が進みませんでしたが、いざはじめてみると結構面白いですね。友達の写真が一覧になって表示され、懐かしさと共に近況をうかがい知ることが出来ました。



意外と
簡単!

同窓会公式facebookページは
上記のバナーをクリックするだけで
閲覧することができますので
ぜひのぞいてみてください。

(ご注意)

facebookページにコメントの書き込みなどをすることもできます。その場合はアカウント登録とログインが必要になります。登録とログインを行うと、実名などの個人情報を公開できるようになります。世界中の誰からも見ることができますので、セキュリティ、プライバシーの設定には充分ご注意ください。なおご利用の際にはfacebookの使用方法や規約をよくご確認ください。

同窓生は今!

学生、社会人両方の経験を活かし研究者、指導者を目指す



- Q1.新潟医療福祉大学在学中に、どちらの学部・学科に所属していましたか?**
医療技術学部健康スポーツ学科(現在は健康科学部)に所属していました。
- Q2.学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか?**
学部時代、院生時代共に一番力を注いだことといえば部活動です(陸上競技部に所属していました)。
- Q3.勤務先について紹介してください。**
新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科に勤務しています。
- Q4.現在携わっていらっしゃるお仕事について具体的に教えてください。**
普段はJ棟6階の合同研究室で学科業務に勤めています。その他授業の補助、研究補助を行い、夕方からは陸上競技部のコーチを務めています。また、毎週土曜日には大学で小学生を対象とした運動教室を開いています。
- Q5.大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか?**
授業補助として専門科目以外の授業に関わることがありますが、学部時代にスポーツ科学、健康、教育に関する幅広い分野

- を学んだことはものすごく生きていていると思います。
- Q6.仕事に対するご自身のモットーを教えてください。**
学生の名前をすぐに覚えることです。
- Q7.今後の夢や目標を教えてください。**
来年度から、筑波大学大学院に進学します。社会人から大学院生に戻る形となりますが、学生、社会人両方の経験をさせていただいた医療福祉大学で学んだことを忘れずに、1人前の研究者、指導者を目指したいと思います。
- Q8.最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。**
大学で過ごした時間は一生の宝物になるので在学生の皆さんはたくさん思い出を作ってください。同窓生の方は一緒に同窓会を盛り上げていきましょう。
- Q9.その他に情報発信したいことなどございましたら、なんでも結構です。**
卒業生の方でお子さんがいらっしゃいましたらぜひ新潟医療福祉大学スポーツ教室の参加をお待ちしております。



新潟医療福祉大学 勤務

吉田 拓矢さん
(健康スポーツ学科2009年卒/
大学院健康科学専攻健康スポーツ学分野2011年卒)

科学的根拠に基づくリハビリテーションの提供

- Q1.新潟医療福祉大学在学中に、どちらの学部・学科に所属していましたか?**
医療技術学部作業療法学科
- Q2.学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか?**
卒業研究に打ち込んだこと
- Q3.勤務先について紹介してください。**
新潟リハビリテーション病院に勤務しています。県内でもリハビリ職員の人数が多い病院で、整形外科疾患や脳血管障害の方々のリハビリテーションを行っている病院です。最近はロボットスーツHALや随意介助型電気刺激装置などを用いたリハビリテーションも行われています。
- Q4.現在携わっていらっしゃるお仕事について具体的に教えてください。**
作業療法士として脳血管障害の患者様を中心にリハビリテーション業務を行っています。
- Q5.大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか?**
大学の授業で学んだことや実習で学んだことが今の仕事の基礎になっていると思います。

- Q6.仕事に対するご自身のモットーを教えてください。**
まだまだ勉強中ですが、科学的根拠に基づいたリハビリテーションを提供できるようにすることをモットーにしています。
- Q7.今後の夢や目標を教えてください。**
今年大学院が修了し、今後その知識を生かし臨床的な研究を行っていきたくと思っています。
- Q8.最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。**
私は、今年本学の大学院を卒業しました。私が大学院へ進んだきっかけは臨床現場で働く中で疑問に思うことが多々あったからです。皆さんも、社会に出て疑問を持つことがあったり、もっと勉強がしたい、研究がしてみたいと思うことがあるかもしれません。自分自身をより成長させたい、何か研究したいと思ったら、是非本学大学院への進学をお勧めします。



新潟リハビリテーション病院 勤務

吉田 翔太さん
(作業療法学科2011年卒/
大学院保健学専攻作業療法学分野2013年卒)

行動も言葉のひとつ

- Q1.新潟医療福祉大学在学中に、どちらの学部・学科に所属していましたか?**
医療技術学部 健康スポーツ学科
- Q2.学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか?**
陸上競技を通じて個性的な先生方・仲間と出会えたこと。
- Q3.勤務先について紹介してください。**
県立新発田農業高等学校(非常勤講師:保健体育)
創立100年を迎えた伝統校 「知行合一」を校訓とし勉学や部活動に励んでいる。
甲子園出場校 近年では、女子部員(柔道・空手・陸上・ラグビー)の活躍が目覚ましい。
- Q4.現在携わっていらっしゃるお仕事について具体的に教えてください。**
教科:保健体育
体育では、そのスポーツが持つ魅力を体験出来るような授業を展開している。保健では、将来の健康やQOL向上について考えてもらう授業を展開している。

- Q5.大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか?**
トレーニングの理論や教育の方法と技術など、大学で学んだ事々が現在の講師生活に生きています。
- Q6.仕事に対するご自身のモットーを教えてください。**
学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない。やってみて、言って聞かせてみせ、させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ。
- Q7.今後の夢や目標を教えてください。**
知性と人間性を兼ね備えた魅力ある教員になりたいです。
- Q8.最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。**
在学生:4年間は一瞬です!今頑張れば、未来が楽になります!
同窓生:どこの環境も辛いですが、人とのご縁を大切に!



県立新発田農業高等学校 勤務

長谷川 尚之さん
(健康スポーツ学科2009年卒)

同窓生は今!



学生の頃を振り返る、そして今

Q1.新潟医療福祉大学在学中に、どちらの学部・学科に所属していましたか?

医療技術学部 健康栄養学科

Q2.学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか?

4年間の集大成である卒業研究です。国試の勉強もあり、とても大変でしたが、ゼミ生と支えあいながら何とか乗り越えられました。その分、学ぶことも多くありましたし、何より先生の妻さを間近で感じる機会になりました!今でもゼミで集まって、仕事の近況報告等をしています。

Q3.勤務先について紹介してください。

株式会社ケアスタッフという派遣会社で、新潟県内の看護職、介護職の就職サポートを行っています。地元の地域医療、福祉の雇用インフラのサポートをし、医療、福祉の従事者から強く必要とされる会社を目指しています。今後は委託給食事業にも取り組んでいきます!

Q4.現在携わっているお仕事について具体的に教えてください。

現在は取引先の柏崎 新潟病院にて調理スタッフとして勤務しています。実際に調理の現場を学び、この経験を基に春から委託給食事業の営業職として活躍する予定です。

Q5.大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか?

働いてみて、もう少し勉強しておけば良かったなと思うことばかりですが、一番影響していることは、人とのコミュニケーションです。当大学では学科

の垣根を越えて学生同士が交流を行っています。また、先生方との距離も近く、知らず知らずの間に人とコミュニケーションをとるための技を学んでいたように思います。それが仕事のモチベーションにも繋がっている気がします。

Q6.仕事に対するご自身のモットーを教えてください。

仕事は何をするかも大切ですが、誰とするかが一番重要だと考えています。ですので、まずは良好な人間関係を築くことをモットーに働いています。いかに心の懐に飛び込んでいくか、ですね。

Q7.今後の夢や目標を教えてください。

まずは春以降、営業職&立ち上げメンバーとして弊社委託給食事業を軌道にのせること!あとは、プライベートも充実させて、素敵な30代を迎えることです。

Q8.最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

在学生の皆さんには、良くも悪くも色々な経験をしてほしいですね。少しくらいいっしょに出ている方が楽しいと思いますし、人としての幅も出ると思います。これからの人生は就活をはじめ、様々な岐点があることと思います。そんな時は、失敗しない道ではなく、“ワクワクする道”を常に選んでもらえたら、今後の人生が希望に満ちてくるのではないのでしょうか。これからも人生頑張りましょう!同級生には、相変わらず皆頑張ってると思うので、今度ご飯でもいきましょう!柏崎案内するよ!



株式会社ケアスタッフ 勤務

星野 広樹さん

(健康栄養学科2010年卒)

♡ 心に届くいい話

私は今スポーツを教える仕事に就いています。今の仕事に誇りを持って取り組んでいます。

しかしながら人にモノを伝えるということは非常に難しく、こちらが意図していないことが伝わっていたり、捉え方が違うことにより間違った方向に導くことが多々あります。先日、大阪の高校で体罰により一人の尊い命が失われました。親御様の気持ちを考えて大変いたたまれない気持ちになります。同じスポーツを指導する立場の私としても一つ間違えば同じような側に立つのではないかと身の引き締まる気持ちでした。決して体罰をしているわけではないですが、私たちが使っている「言葉」も同じような事があるのではないかと。言葉の一つ一つを選んで発しなければ受け取る方としては体罰を受けるのと同じくらいの衝撃があるのではないかと考えてしまいました。目に見える体罰も目に見えない言葉も使い方を一つで凶器になりかねない人間が考え出したアイテムではないかと思っています。

決して体罰というものを肯定はしませんが体罰の他にも同じような暴力があるのではないかと考えてしまいました。

しかしながら、指導をしている時には心を鬼にして言わなくてはならない事があります。その時には本当に自分自身それで良かったのかと自問自答してしまう事もあります。そんな時、恩師が言っていた言葉を思い出しました。「今その意味が分からなくても、将来その言葉の意味がわかってくれればよい」と。命を奪うような言葉はいけませんが、その意味を長い目で考えてくれるような言葉で伝えていけばよいのではないかと。それがどんな言葉なのかは私の経験ではまだわからないでしょう。しかし伝えたい子供たちが大人になって「あの時の言葉はこんな意味だったんですね」と笑顔で語ってくれる日を私は待ちたいと思います。これからは私は今の仕事を続けていこう。その時に「こんな素敵なアイテムをもらった」と、教え子たちに言われるような指導者になりたいと思います。

健康スポーツ学科 2011年 卒業

NUHW新着情報

新潟医療福祉大学では新学科の設置を計画しています。

※学科名称・設置年度・その他詳細は予定であり変更になる場合があります。

医療技術学部
視機能科学科

2014年4月新設(計画中)



【視能訓練士(国家資格)】と【同行援護従事者(視覚障がい)】の同時取得に対応したカリキュラムを配置。視機能・医療・福祉・リハビリ・保育を学び、幅広い領域で活躍できる“現代社会のニーズに対応した視機能のプロフェッショナル”の育成をめざします。

健康科学部
スポーツ教育学科

2014年4月新設(計画中)



【中・高教諭免許(保健体育)】、【ジュニアスポーツ指導員】の資格取得に加え、他大学との連携により、【小学校教諭免許】が取得できるプログラムを設置し、子どもの成長を支える“スポーツ指導者・教育者”の育成をめざします。

先輩訪問

株式会社 はあとふるあたご

田子 篤史さん(義肢装具自立支援学科2012年卒)

INTERVIEWER

佐藤 由実さん
(義肢装具自立支援学科3年)

平成25年1月某日、株式会社はあとふるあたごへ先輩訪問に行ってきました。はあとふるあたごは、新潟県内を拠点とし、地域密着型の介護事業を展開しています。業務内容は居宅介護支援、訪問介護、通所介護、福祉用具貸与・販売、介護用住宅改修、認知症対応型共同生活介護、短期入所生活介護、小規模多機能居宅介護等、さまざまなニーズに対応した介護サービスを行っています。今回伺った柳都大橋店では、「居宅介護支援」「福祉用具貸与・販売」「住宅改修」「訪問介護」「デイサービス」の4つの事業所がはいていました。室内は明るく、スタッフの方も元気で、お客様が快適にデイスサービスを受けられるという印象でした。

はあとふるあたごでは、本学を卒業した2名の義肢装具士が働いており、今回は柳都大橋店で勤務されている田子篤史さんにお話を伺うことができました。業務内容は、主にケアマネージャーから紹介されたお客様の福祉用具の貸与や販売、住宅改修があります。さまざまなお客様がいる中で一人ひとりの心身の状態や家屋の様式を考慮し、よりベストな物を選ぶことを大切にしているそうです。これは各人にぴったりの商品を提供することでお客様が快適に用具を利用できるからです。また、高齢者の方に対して働くことで、自分自身が勉強になることも多く楽しんでいるそうです。例えば、料理や食事方法、あるいは介護についても学ぶことが多く、そこに楽しさを見出しているそうです。

装具を使用しているお客様には、現在新潟市内の義肢装具会社で働く同期の義肢装具士と連携しお客様をサポートすることもあります。本学を卒業し

たことで義肢装具会社とすぐに連携をとれる関係が強みであるとおっしゃっていました。

去年までは、先輩スタッフと営業同行し、さまざまな先輩スタッフの営業スタイルの良さやケアマネージャー、他職種との連携について身につけてきたそうです。

4月からは一人で担当エリアを任せられ、営業を行わなければいけません。そこで今後の目標として、先輩スタッフに負けないようにケアマネージャーやお客様との信頼関係を築き、専門職としての知識・技術を高め、より良い商品の提供に努めたいとおっしゃっていました。

在学生へのメッセージとして「在学中は、たくさんの素晴らしい外部講師の先生から講義を受けることができます。それは、在学生の特権なので、多くの事を吸収し、勉学に励んで欲しい。」とのことでした。

今回訪問させて頂き、学生時代に培った知識と人脈を活かし活躍する先輩に接し、私も多角的な視点から支援できるQOLサポーターになりたいと感じました。

最後になりましたが、お忙しい中、時間をつくっていただいたはあとふるあたごの皆様、ならびにインタビューを受けて頂いた田子さんに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



福祉用具ショップユニオンプラザ店

新潟医療福祉大学

林 遼太さん(健康スポーツ学科2009年卒/大学院健康科学専攻健康スポーツ学分野2011年卒)

INTERVIEWER

渡邊 拓哉さん
(健康スポーツ学科3年)

私たち大学三年生は2013年2月現在就職活動が本格化しています。私自身も自分の将来、さらに言うと、私はどこで働くことになるのか、という点に日々頭を悩ませています。そんな中、大学職員として働く林さんにお話を聞かせていただきました。

林さんは私たちと同じ健康スポーツ学科の1期生でその後大学院に行き、現在は大学職員という形で強化サッカー部のスケジュール調整・練習場の確保・そして指導などをされています。サッカーには選手自身のコンディションもありますが、天候や人数など練習を行うためのコンディションもあります。例えば、雨が前日の夜から降り続いているれば次の日の午前中に屋外での練習は難しいでしょう。林さんは練習のスケジュール調整で、急なコンディションの変化にも臨機応変に対応しなければなりません。雨が降りそうならば降る前に屋外を使う。そのための連絡も行う。練習の質を保ち、高めるために非常に重要な仕事です。

林さんにこの職に就いた経緯を伺ってみました。サッカーの指導を学びたいとのことこの大学に入学した林さんは、強化サッカー部に入り選手としての傍ら指導法を学び、徐々に指導を任せられるようになったそうです。そして大学院に進み現在の職に就いたと語っておられました。サッカーの指導のために入学して、学生時代を過ごした場でやりたい職に就くことができた。就職活動中の私にとっては非常に羨ましく思います。スポーツに関する夢を持って健康スポーツ学科に入学した身として、林さんの生き方を尊敬し、羨ましく思います。

また、強化サッカー部という厳しいアスリートの世界、結果が目に見えてしまう世界で生きている以上、うまくいくことも失敗してしまうこともあると思います。個人的な疑問で「どん底まで落ち込んだ時どうしたか」という問いかけをしてみました。すると「辛いこともあったが、明日は来る以上落ち込んでられない。落ち込む暇がなかった」という答えが返ってきました。私自身1つのミスを引きずってしまうことが多々あるのでこれは身にしみる話でした。社会は自分の仕事を全部できなければ全体の工程が滞ってしまい、結果として組織や企業の全体に迷惑をかけることとなります。そういった意味での責任を背負うこと、これは学生と社会人の最も大きな部分の1つではないでしょうか。

今回のインタビューでマネージャーなど、裏方とよばれる人たちの重要性をより一層感じることができました。裏方の人が仕事を行ってくれるおかげで、全体がスムーズに回ります。「縁の下の力持ち」といふべきこの仕事は、忙しく休む暇もなく、しかし非常に充実しているのではないのでしょうか。

最後に林さんは「親がお金を出してくるから学校に行ける」とも言っていました。確かに親は私にとって最も身近な裏方の人であり、親のおかげで学校に行けるのであって、その人のためにも大学を有意義に過ごさなければいけないと思えました。

最後になりましたが、素晴らしい機会を作ってくださった事務局の方へインタビューに答えてくださった林さんに深く感謝いたします。ありがとうございました。





理学療法学科

理学療法学科 講師
椿 淳裕

卒業生の皆さん、こんにちは。「伍桃」が皆さんの手元に届くのは、春に向かう日々の変化を感じられる頃でしょうか。この1年を振り返ってみました。

春:12期生97名が入学し、理学療法士になるべく勉強を開始。2年生、3年生もより専門的な授業へ。新しい2人の先生を迎えました。

夏:定期試験が大きな山。4年生は、春から夏にかけての総合実習で成長しました。

秋:2年生は検査測定実習、3年生は評価実習へ。OSCEやタンポポの会との交流会にも力が入ります。4年生は、卒業研究や就職活動、国家試験の勉強と、息つく暇がありません。粟生田先生はオーストラリアへ短期留学に。卒業生の研究論文が理学療法学に掲載されました。

冬:4年間で最大の試験とも言える国家試験。今年の結果は?大西先生、菅原先生、椿の研究論文が英文誌への掲載が決定。久保先生と古西先生はイギリスで研修です。

学科ホームページ(<http://www.nuhw-pt.jp/>)で、より多くのTopics & Newsをご覧ください。



1年生・基礎ゼミ交流会の様子



作業療法学科

作業療法学科 准教授
桐本 光

1-3期生の皆様、はじめまして。4-8期生の皆様、お久しぶりでございます。それぞれ様々な苦勞を抱えながらも、何かしらに熱中できる時間を過ごせているでしょうか。さて今回は、本学科の研究指導について紹介します。早期研究体験支援プロジェクト(Undergraduate Research Opportunities Program:UROP)を、2年次から履修していた9期生の松本卓也君が、学部生ながら、日本臨床神経生理学会で研究成果を発表しました。また修士課程2年生の吉田翔太君(7期生)の演題は、優秀演題として英文誌Clinical Neurophysiologyに、そのAbstractが掲載されることになりました。これまでの臨床現場で蓄積したデータを整理したい、経験したことを科学的な手法で論理的に説明したい方々、君たちの決断を大学院が待っています。

“この道を行けば どうなるものか危ぶむなかれ”(アントニオ猪木「道」より)。



言語聴覚学科

言語聴覚学科 准教授
山口 富一

卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思います。4月から着任されて佐藤克郎教授と加藤梓助手を迎え糟谷学科長を中心に学科教員一丸となって言語聴覚学科の教育に取り組んでいます。後期には3年生

32名が北は北海道から西は福岡まで全国各地で実習を行いました。4年生は卒業研究をまとめ9月20日21日に卒業研究発表会を行いました。今まではCDに論文集を残してきましたが、昨年よりすべて印刷して卒業論文集として製本しています。卒業生にとっては大学時代の思い出と共に言語聴覚士として仕事を続けていく上でも貴重な財産となることでしょう。2月23日には臨床実習Ⅱ・Ⅲの指導者会議がありました。臨床実習指導者として本学言語聴覚学科の卒業生8名が参加してくれました。年々本学の卒業生が指導者として実習生の指導に携わる人が多くなってきています。指導することによって自分自身が高まることできるという話しを伺い、頼もしく思いました。



義肢装具自立支援学科

義肢装具自立支援学科 助教
藤枝 温子

卒業生の皆さん、お元気でしょうか?今年度は、学科開設時より学科を支えてこられた坂井先生が退職され、新しく大沼先生が赴任されました。そして、この伍桃誌が手元に届く頃には、1期生の劉さん、郷さん、松矢さんが修士課程の修了式を迎え、学科初の福祉用具分野における臨床実習指導者会議を実施します。

2年前に本学科3期生が中心となって創設したサークル、Flying Wheel Chair Spporters(空飛ぶ車いすサークル)は、今や部員数80名以上を誇り、活動の幅を広げています。今年度はタイ王国や韓国など諸外国での活動や、高校生と車いすの修理会、学会での活動報告を行うなど、知識や技術の研鑽に努めています。

このように当学科は日々成長を続け、新しいことに取り組んでおります。これも多分野で活躍している皆さんの支えがあってこそだと実感しております。

今年も臨床実習で指導ととも、後輩の将来像を描く手伝いをお願い致します。





健康栄養学科

健康栄養学科 准教授
渡邊 榮吉

卒業生の皆さんお元気ですか。昨年は玉木有子先生の退職、初代学科長村山篤子先生のご逝去など、悲しい年でしたが、当科6期生で当大学院を修了した阿部夏希先生の着任や、学科教員及び学生の活躍のお陰で、新たな息吹を感じた年でもありました。

今年度の主な活躍としては、村山伸子先生の新潟日報文化賞の受賞、他先生方の日々の研究と教育の功績、北区農業委員会との連携事業等があります。本連携事業は、耕作放棄地でのさつまいも栽培→収穫したいもの商品開発→「大学は美味しい!!!in新潟」での商品販売→県知事訪問や「食と農のつどい」での報告等、発展的な活動となりました。さらに3月には、学生の米国研修(サンフランシスコのロマリダ大学、病院、施設訪問等)があり19名が参加します。

以上が主な近況ですが、研究及び学生教育の充実ためには、卒業生の皆様のお力添えが大きく影響しますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 助手
中島 由梨

卒業生の皆さん、初めまして!今年度より着任いたしましたダンス担当の中島由梨と申します。卒業生の皆さんにおかれましては多方面においてご活躍のことと思います。

健康スポーツ学科には私ともう一方バレーボールの濱野先生が着任され、女性教員陣が3名になりました。来年度から始動する新たな強化部として、女子バレーボール部、ダンス部と、着々と基盤を固めつつあります。

また数年前から始まったスポーツ教室も徐々に北区に浸透し、中には数種目の教室に掛け持ちで参加するお子さんもいらっしゃるほど、盛り上がってきています。水泳教室・陸上教室・体力アップ教室に加え、今年度からは球技教室・ダンス教室も始まりました。ダンス教室では男女合わせて7名の学生が中心となって子供たちや保護者の方々とリズムに乗って楽しく踊り、最後には新潟日報主催/明治協賛の「クリスマス子ども大会」にて、ライトアップされながら大きなステージで踊る経験もできました。こうした課外活動はじめ、学生自身が主体となって人に教える機会が増え、一つ一つの授業や活動が指導実践の場としての役割を担ってきています。これらの体験が彼らの糧となって繋がっていくことを願いつつ、今後の健康スポーツ学科の発展に期待しています。



看護学科

看護学科 講師
目黒 優子

看護学科の各学年の活動状況についてご紹介致します。4年生は、国家試験に向けて個人あるいはグループごとに、学習を進めています。1月9日には、団結式を行いました。学生と教員が丸となって「国家試験全員合格!」を目指して日々励んでいるところです。3年生は、9月から始まった領域別看護学実習の山場を迎えています。それぞれの領域の知識や技術は勿論のこと、何と云っても体力が勝負です。2年次の基礎看護学実習からさらに成長を続けています。残りの実習も体調を崩さないように留意しているところです。2年生は、領域別看護学分野の事例展開や演習など、ますます専門的な学習内容が増えてきました。1年生は、授業時間が終了した放課後に学生間で、洗髪など日常生活援助技術について練習している場面が多く見受けられます。技術テスト合格を目指して取り組んでいます。このように学習課題は段階を経ながら一歩ずつ着実に前に進んでいます。



社会福祉学科

社会福祉学科 講師
青木 茂

社会福祉学科の卒業生の皆さん、こんにちは。青木と申します。2011年から社会福祉学科で教員をしております。今回は、私から社会福祉学科の近況をご報告いたします。

本年度から佐渡市より委託を受け、「域学連携」地域づくり実証研究事業を行っています。域学連携とは、地域の抱えるさまざまな生活問題を住民と大学(学生・教員)が一緒になって解決していく、そんなイメージでとらえてください。

現在、佐渡市の新穂大野地区という少子・高齢化の進む集落に、定期的に学生と教員がおじゃまをしています。住民の生活ニーズを把握するために車座トークを行ったり、集落のお祭に参加し、信頼関係を築いたり、住民主導のサロン(お茶の間)活動に参加し、高齢者と交流を図ったりと地域を元気にするための活動を展開しています。車座トークでは、高齢者の孤立の問題、買い物の問題、ゴミ出しの問題、通院の際の移動の問題など、切実な声として把握されました。次年度には、これら問題を一つでも解決できるよう住民の皆さんと学生が知恵をしばり、行動します。また、昨年12月には、一年間の活動報告のためのフォーラムを開催しました。当日は、地域住民、学生・教員など約100名近くの参加者の下、学生を代表して4年生が「この一年間集落に暮らすお一人おひとりの「想い」や「願い」を聴かせていただいた。車座トークでは、佐渡で暮らし続けることへの「誇り」と「一人の人間としての力」のようなものをひしひしと感じた。」と述べて、住民の皆さんから大きな拍手をいただきました。このように社会福祉学科では、大学での机上の学びをフィールドで実践できる機会をこれからも多く設けてまいります。





医療情報管理学科

医療経営管理学部長／医療情報管理学科長
福島 正巳

完成年度を迎えます!

平成22年度に医療情報管理学科が開設され早いもので平成25年度に完成年度を迎えます。

ひとえに関係各位のご協力・ご支援の賜物と学科教員一同感謝申し上げます。

さて、新4年生は、診療情報管理士、メディカルクラーク、基本情報等の資格試験や就職活動に第一期生として奮闘しています。夢の実現に向け努力した結果が報われる事を心より願っています。また、新3年生は楽しい2年生を過ごし、これから具体的な目標に向けスタートを切ろうとしています。新2年生は、大学生活にも慣れ本格的に専門分野の学習に取り組む事になります。

それぞれの学年がそれぞれのテーマに真摯に取り組み充実した学生生活を過ごして行けるよう完成年度を迎えるにあたり教員一同気持ちを新たに組み込んで参りたいと決意しております。関係各位の倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



首都圏、
関東地区に
お住まいの
方へ

首都圏支部って 何をしているの?



「同窓会の集まりに参加したいけれど、新潟は遠いから・・・」とよく聞かれる言葉です。ご存知でしたでしょうか?実は、東京、千葉、神奈川、埼玉、山梨、群馬、茨城、栃木エリアにお住まいの会員の皆様を対象として、都内のサテライトキャンパスに首都圏支部の集まりがあります。

まだまだ新しい支部ですので、次の活動を考えています。
お気軽にご参加ください。

- ①首都圏で働く卒業生と交流
(近隣の施設や病院などの情報交換を考えています)
- ②近隣の同窓生同士での勉強会
- ③なんでも気軽に話しができるような食事会
- ④首都圏支部役員会、総会の開催

東京でミーティングするので来てね。



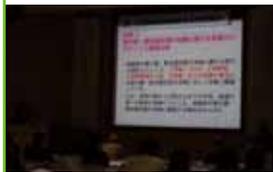
第12回

新潟医療福祉学会学術集会

去る10月20日に新潟医療福祉学会学術集会が開催されました。今回は医療情報管理学科が事務局として、会の企画・運営を行いました。



当日は医療情報管理学科学生もスタッフとしてお手伝い。



午前中は一般演題の発表。保健・医療・福祉・スポーツ分野における様々な研究成果の発表がありました。



研究で得られた成果を、現場での業務や今後の教育活動に生かしているよう期待です☆



大学院生の発表も数多く見られました。



午後は特別講演と鼎談(三者でのシンポジウム)です。特別講演は新潟大学歯学総合病院医療情報部 教授赤澤宏平 先生より「保健・医療・福祉・スポーツにおけるITの活用可能性」というタイトルでご講演頂きました。

近年、医療機関における診療活動では、医療経営の健全化と医療の質の向上という一見相反する課題に取り組むことが必要となっています。これらのふたつの課題を考える際に情報技術(IT)の有効活用が重要な役割を果たすようになっており、先生の講演では、保健・医療・福祉・スポーツの各分野でITがどのように活用されつつあるのかを事例を挙げてご紹介頂きました。

例えば、高齢化が進む今日、医療過疎の地域では、高齢者の健康管理の維持や医療の提供手段が問題となり、遠隔医療システムや健康相談システムの開発・導入が進められていることを紹介いただきました。また、病院では、ITを駆使した医療機器やコンピュータシステムが導入され医療形態そのものが変化しつつあり、診療情報を電子的に保存しそれらを診療に役立てる電子カルテシステムの実像を紹介いただきました。

さいごに、これからの医療人は、医療界全体の動向を見定め、医療現場で使われる情報技術の長所と短所をよく理解した上で、どういった医療を国民に提供すべきかを考える能力が問われることのお話を頂き、将来、医療事務、医療情報、医療経営の分野を志す医療情報管理学科の学生さん達にも心強い応援のメッセージを頂きました。

鼎談とは、三者で行うシンポジウムです。

今回は、新潟大学歯学総合病院 医療情報部 教授 赤澤宏平先生(扶)健康保険医療情報総合研究所 セネラルマネージャー 麻生玲子先生 新潟医療福祉大学 医療情報管理学科 教授 瀧口徹先生の三人の先生方と交えて、

病院における医療情報管理の動向について
—新潟県の立ち位置を考える—
というタイトルで、各先生方の専門の立場からお話を頂きました。瀧口先生からは、「新潟県における医療情報管理の現状について」、最近の動向をデータをお話しいただきました。

赤澤先生からは、「診療情報の電子化が医療の質の向上に貢献できるしくみとは?」というテーマで、診療情報の集積と活用の重要性について、医療安全管理や医療の質の評価の観点からお話しいただきました。

また、麻生先生からは、「診療情報の標準化とこれからの診療情報管理士の役割」というテーマで、医療のIT化にともない今後の診療情報管理士に求められる役割、機能について分かりやすくお話し頂きました。

質疑応答では、臨床の先生をはじめ多様なバックグラウンドをもつ方からの質問・コメントがあり、新潟県における今後の医療事務・情報・経営分野の動向についての議論を持つことができました。

また、学生さんからの質問の機会もありました。実習から帰ってきたばかりの3年生、緊張しながらもしっかりと受け答えをしていました! 今後も資格取得のための勉強にとどまらず、医療事務・医療情報・医療経営分野をリードできるようなエキスパートを目指して、共に学んでいきましょう☆

今回は、新潟大学歯学総合病院 医療情報部 教授 赤澤宏平先生(扶)健康保険医療情報総合研究所 セネラルマネージャー 麻生玲子先生 新潟医療福祉大学 医療情報管理学科 教授 瀧口徹先生の三人の先生方と交えて、

病院における医療情報管理の動向について
—新潟県の立ち位置を考える—
というタイトルで、各先生方の専門の立場からお話を頂きました。瀧口先生からは、「新潟県における医療情報管理の現状について」、最近の動向をデータをお話しいただきました。

赤澤先生からは、「診療情報の電子化が医療の質の向上に貢献できるしくみとは?」というテーマで、診療情報の集積と活用の重要性について、医療安全管理や医療の質の評価の観点からお話しいただきました。

また、麻生先生からは、「診療情報の標準化とこれからの診療情報管理士の役割」というテーマで、医療のIT化にともない今後の診療情報管理士に求められる役割、機能について分かりやすくお話し頂きました。

質疑応答では、臨床の先生をはじめ多様なバックグラウンドをもつ方からの質問・コメントがあり、新潟県における今後の医療事務・情報・経営分野の動向についての議論を持つことができました。

また、学生さんからの質問の機会もありました。実習から帰ってきたばかりの3年生、緊張しながらもしっかりと受け答えをしていました! 今後も資格取得のための勉強にとどまらず、医療事務・医療情報・医療経営分野をリードできるようなエキスパートを目指して、共に学んでいきましょう☆



研究室Now!

言語聴覚学科 准教授 吉岡 豊



Q. 先生の研究内容を教えてください。

これまでの私は研究一筋という訳ではなく、大学教員と病院の言語聴覚士を兼務していました。病院の耳鼻咽喉科では小児聴力検査や補聴器外来、リハビリテーション科では小児言語発達障害を中心に臨床を行っていました。新潟医療福祉大学に着任してからは言語発達支援センターで10数例の小児を訓練しながら、言語発達障害児の言語発達について臨床的な研究を進めています。今の研究テーマは言語発達障害児の表出語彙の特徴についてですが、それだけではありません。センターには就学児も来ているので仮名文字の導入をどのように行うのがよいのかについても研究しています。さらに、コミュニケーション手段として音声言語を用いない多動性障害児の行動変容、自閉症児のアクセント能力などについても検討しています。もちろん、これらの研究が一人で行えるわけではありません。これらの研究は卒研ゼミ生とともに進めています。ですから、ゼミ生は言語発達支援センターの臨床に数多く参加しています。

これらの研究を遂行するために、表出語彙の分析や訓練教材の準備に日々追われています。また、多動性障害児の臨床では毎回ビデオ撮影をしていて、それをDVDに保存するという作業もその都度しています(1回2時間以上かかるのが大変です)。学術的な研究というよりも臨床で出会った子供たちに何とか言葉を発してもらいたい、少しでも成長してほしいという、センチメンタルな願いが研究の原動力になっています(もちろん、知りたいという好奇心もあります)。

ゼミ生に手伝ってもらいながら、また言語発達支援センターに来る子供たちと保護者様に協力していただきながら、地道に研究活動を続けていきたいなと思っています。



Q. 趣味や休日の過ごし方を教えてください。

趣味は時代小説の乱読です。自宅にある蔵書は一般家庭よりかなり多いと思います。最近は葉室麟(直木賞受賞作家)の「川あかり」を読みました。この小説では「大切にせねばならぬ者を友と呼ぶ」ということを学びました。以前は家族でドライブに行ったりしていましたが、行き先に大きな魅力がないと誰も一緒に行かなくなり、さらに部活などでドライブは難しくなりました。また、気に入った新聞記事の切り抜き作業は学生時代からずっと続けています。

Q. 同窓生へコメントをお願いします。

人は楽をしたいと思う反面、何もすることがないと不満をいう生き物です。信頼されて仕事があることの有り難さを感じてください。そして、人は普通のあなたを見ています。信頼はそこから生まれてくると信じています。

作業療法学科 准教授 鈴木 誠



Q. 先生の研究内容を教えてください。

私の研究テーマは、「どのような対象者に、どのようなリハビリテーションの介入を実施すると、どのような結果が予測されるか、なぜそうなるのか?」という問いに答えることです。この問いに答えるために、現在はリハビリテーションに関する臨床研究と経頭蓋磁気刺激を使用した実験研究を連携して進めています。

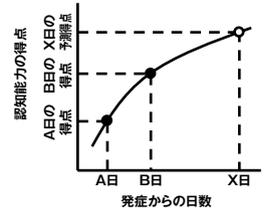
臨床研究では、日常生活における行動障害とその基礎にある心身機能障害の関連性を明らかにするとともに、行動障害と心身機能障害を改善するためのリハビリテーションに関する実証研究を行っています。最近では、脳卒中によって低下した認知機能障害の回復を簡易な対数の計算式によって予測することに成功しました(<http://dx.plos.org/10.1371/journal.pone.0053488>)。

実験研究では、経頭蓋磁気刺激を使用し、行動の学習を促進するためのメカニズムの探索を行っています。最近では、行動練習に伴う皮質脊髄興奮性の変化を経頭蓋磁気刺激を用いて検証したところ、練習に伴って主動筋と拮抗筋に投射する皮質脊髄の興奮性に相反的な変化が生ずることを明らかにしました(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22871269>)。

また、臨床現場でリハビリテーションに携わっている作業療法士・理学療法士・言語聴覚士に研究成果を還元するため、研究会やワークショップを企画して情報を発信しています(<http://www.koudo-reha.com/>)。

医療の数ある領域の中で、リハビリテーションは「曖昧な当たり前」や「きっとそうなんだろ」が多い領域だと思います。当たり前(と思われている)のことは、その正当性や効率性や意義が検証されませんが、なんとなく目の前を通り過ぎて行っているようです。

リハビリテーションに無数に存在している、そのような当たり前で曖昧なことを、モデル化し、科学的に検証していけるような人間になりたいと思っています。



A日とB日における認知能力の得点を対数による計算式に入力して、X日の得点を予測します。



Q. 趣味や休日の過ごし方を教えてください。

休日は、家族と近所の公園、お店、図書館に行って過ごしています。趣味は読書です。小説を読むことが好きです。ワンパターンな休日の過ごし方ですが、私としては(きっと家族も)満足しています。

Q. 同窓生へコメントをお願いします。

同窓生の皆様、「伍桃」の記事を読んでくださって有難うございます。大学を卒業して社会で活躍されている皆様の益々の発展をお祈りしております。お近くにお越しの節には、ぜひ大学にお寄りください。皆様のお越しをお待ちしています。

佐渡県人(島人)会が発足しました



平成24年12月20日、本学にて第1回新潟医療福祉大学「佐渡県人(島人)会」が開催されました。福島県人会に続き、2つ目の県人会発足となります。

現在、本学には40名以上の佐渡出身者が在籍しています。佐渡県人(島人)会では「深めよう お互いの絆。つなごう 佐渡(里)との絆」の合い言葉のもと、同郷の仲間が集うだけでなく、佐渡市との連携を図りながら、「佐渡市・大学・学生」が一体となった県人(島人)会を目指していきます。

第1回目の県人会には、学生・教職員含め15名ほどが参加し、会の前半で、自己紹介や佐渡のご当地クイズや方言クイズでお互いに知り合い、絆を深めていきました。またその後は沢根団子やときのふわふわミルク餅など、佐渡土産を囲んでの談話となりました。参加者全員で今後の佐渡県人(島人)会の取組み

について考えていきました。

会の後半では、佐渡市からの情報提供ということで、佐渡市役所政策総合課長様からの佐渡県人(島人)会発足のお祝いメッセージを披露するとともに、佐渡市役所からいただいた佐渡の情報を紹介し、佐渡(里)との絆の第一歩としました。

会終了後、参加者からは、「トキマラソンに参加しましょう!」「鬼太鼓教室をやりませんか!」「トキの保護活動について考えてみたい!」「佐渡人はやはり温かい次の会が楽しみです!」など、1時間程度の会ではありましたが、参加者同士の交流から、佐渡市に貢献したいという気持ちが芽生え、大変盛り多い会となりました。

同窓会支援室 加藤 裕之

※この文章は新潟医療福祉大学HPの記事より抜粋、改変させていただきました。



上空からの佐渡島





長澤さんの仕事の流れ

①

医師の処方をもとに患者様の身体状況・症状を確認する。

②

患者様の型取りを病院で行う。

③

型取りをもとに石膏モデルを作成し、修正する。

④

石膏モデルにプラスチックを成型・加工する。

⑤

病院で患者様に適合させる。

週に2~3個作っている。①~⑥まで全て一人で行う。革、プラスチック、金属、布など様々な素材を使う。

いかがでしたか?皆さんにも愛用のツールがあるのではないかと思います。

道具には魂が宿るといわれることがありますが、人とモノとが一体となって仕事が成り立っていると感ずることがありますよね。今後も特集していきたいと思っていますのでご期待ください。

Tool of Professional

2005年に第1期生が卒業して9年、すでに新潟医療福祉大学からは4,000名以上もの同窓生が巣立っています。今号ではプロフェッショナルとなった同窓生が日ごろ愛用している「モノ」に着目してみました。第1弾は義肢装具士としてご活躍されている長澤さんの「モノ」です。

有限会社北信義肢(東京都)勤務 義肢装具士 長澤 佳祐さん (義肢装具自立支援学科2011年卒)



裁断刀

大学時代から研ぎながら使っている、学科全員持っている。
【用途】革を切る、剥く等



□ 思い入れ

裁断刀は、基本的には今の仕事では革を切る際しか使いません。ほとんど使い勝手の良いカッターを使います。ただ、大学時代から使っているこの裁断刀を使うと、大学時代が懐かしくなりますね。カッターやサーフォームとは違って、自分の好きな角度に研いだり、メンテナンスを続けることで、愛着も湧いて自分のモノになってきました。

□ 勤務先の紹介、選んだ経緯

もともとは実家の山梨県から近いところをと探して出会った会社です。山梨県には義肢関係の働く場所が少なかったことから都内を選びました。

□ 同窓生へのメッセージ

働いてみると、大学では作ったことのないものばかりで毎日戸惑いの連続です。ただ、私が恵まれているのは、職場に頼りになる先輩方がたくさんいることです。患者さんの状態を相談したり、技術面について教えてもらえたりできる環境に感謝しています。「大学は基礎の基礎を学ぶところ」という意識で働きはじめると、順応しやすいのではないかと思います。

大学TOPIC 1

【健康栄養学科】

セブン-イレブン・ジャパン×健康栄養学科共同開発の「野菜入りミルフィーユカツ弁当」を発売!

2012年5月11日(金)より、健康栄養学科と株式会社セブン-イレブン・ジャパン様(以下、セブンイレブン)が共同開発した「野菜入りミルフィーユカツ弁当(税込498円)」を新潟県新潟市内のセブン-イレブン(約110店舗)にて発売致しました。



野菜入りミルフィーユカツ弁当

本学とセブンイレブンは、2009年より商品の共同開発に取り組み、今回で4回目となります。これまでの取り組みとしては、09年6月に「7種の野菜を美味しく食べる彩りDOO~N」、10年9月に「チャーハン&ホイコーロー弁当」、11年3月に「ねぎ塩たれのグリルチキン弁当(麦飯使用)」を発売致しました。



商品開発会議の風景

今回の「野菜入りミルフィーユカツ弁当」は「無理なく野菜量が摂れる商品」ということをコンセプトとして、2011年7月から商品企画・開発の検討を始めました。1日に必要とされる野菜摂取量の約1/3(約120g)を使用した健康的な商品として、野菜が不足しがちなお客様に向けた、ボリュームがありながらももしっかりと野菜が摂取できるお弁当となっております。

- ◆1日に必要とされる野菜摂取量の約1/3が取れるお弁当(野菜量約120g)
 - ◆豚ロース肉と彩りの良い人参いんげんを1つ1つ丁寧に手で重ね合わせたミルフィーユカツ
 - ◆御飯は彩りの良い菜飯にし、副菜には野菜入りビーフンや煮物を盛り付け
- こうした一連の活動を通じて、在学生はプロとの初めての共同作業にも主体的に関わり、また商品化に至るまでの様々なプロセスを実践的に体験するなど、学内の学びだけでは得ることのできない多くのことを学ぶことができたようです。

大学TOPIC 2

本当に強い大学2012(『週刊東洋経済10月27日特大号』)文系就職率ランキングで【全国第1位】を達成!

本当に強い大学2012(週刊東洋経済10月27日特大号)の文系就職率ランキングで全国第1位を達成致しました!

超高齢社会の到来や、国民の健康へのニーズの多様化などに伴い、保健・医療・福祉・スポーツの専門職の役割はますます広がり、高度な専門知識と技術を備えた専門職へのニーズが高まっています。

本学は、今後も学年進行に応じた就職指導プログラムのもと、就職センターをはじめ全学をあげた組織的な就職支援を実践し、【資格・就職に強い大学】として、全学生の夢の実現に向けてサポートして参ります。



『週刊東洋経済2012年10月27日特大号』表紙

※この記事・写真等は、東洋経済新報社様の許諾を得て転載しています。

| 順位 | 大学名 | 学部名 | 就職率(%) |
|----|------------|-------|--------|
| 1 | 私立 東洋経済大学 | 社会学部 | 99.4 |
| 2 | 私立 中部学院大学 | 人間学部 | 98.4 |
| 3 | 公立 岩手県立大学 | 社会学部 | 98.0 |
| 4 | 私立 清泉女子大学 | 教育学部 | 97.3 |
| 5 | 私立 東京福祉大学 | 社会学部 | 96.9 |
| 6 | 私立 信理大学 | 社会学部 | 96.5 |
| 7 | 私立 津田女子大学 | 家政学部 | 96.2 |
| 8 | 私立 緑が丘女子大学 | 社会学部 | 96.1 |
| 9 | 国立 札幌山手大学 | 経済学部 | 95.9 |
| 10 | 私立 信州学院大学 | 子ども学部 | 95.8 |

2012年文系就職率ランキングベスト100

大学TOPIC 3

就職率ランキング(大学通信調べ)で就職決定者500名以上の大学中【私立大学第2位】を達成!

就職率ランキング(大学通信調べ)で就職決定者500名以上の大学中、私立大学第2位を達成致しました!

週刊東洋経済2012年10月27日特大号に引き続き、本学の高い就職率がランキングされており。

本学は、今後も学年進行に応じた就職指導プログラムのもと、就職センターをはじめ全学をあげた組織的な就職支援を実践し、【資格・就職に強い大学】として、全学生の夢の実現に向けてサポートして参ります。

就職率ベスト20(就職決定数500人以上)

| 順位 | 大学名 | 学部名 | 就職率(%) | 就職決定者数 | 就職率(%) | 就職決定者数 |
|----|-------------|------|--------|--------|--------|--------|
| 1 | 国立 福井大学 | 工学部 | 1,298 | 943 | 304 | |
| 2 | 国立 六甲工業大学 | 工学部 | 1,701 | 1,044 | 656 | |
| 3 | 私立 東京福祉大学 | 経済学部 | 742 | 693 | 9 | |
| 4 | 私立 新潟医療福祉大学 | 経済学部 | 615 | 674 | 7 | |
| 5 | 私立 新潟医療福祉大学 | 経済学部 | 1,189 | 1,110 | 10 | |
| 6 | 国立 山形大学 | 工学部 | 3,927 | 2,236 | 1,424 | |
| 7 | 国立 岐阜大学 | 経済学部 | 1,288 | 867 | 427 | |
| 8 | 私立 岐阜学院大学 | 経済学部 | 563 | 539 | 11 | |
| 9 | 国立 東京工業大学 | 工学部 | 2,631 | 1,454 | 1,252 | |
| 10 | 国立 金沢工業大学 | 工学部 | 1,096 | 1,390 | 172 | |
| 11 | 国立 一橋大学 | 経済学部 | 984 | 625 | 98 | |
| 12 | 国立 山梨工業大学 | 工学部 | 1,144 | 974 | 79 | |
| 13 | 国立 山梨大学 | 工学部 | 816 | 593 | 263 | |
| 14 | 国立 愛知教育大学 | 工学部 | 697 | 729 | 93 | |
| 15 | 国立 芝罘工業大学 | 工学部 | 2,101 | 1,424 | 506 | |
| 16 | 国立 江華大学 | 工学部 | 1,493 | 886 | 499 | |
| 17 | 国立 川崎医療福祉大学 | 経済学部 | 632 | 754 | 41 | |
| 18 | 国立 名古屋工業大学 | 工学部 | 742 | 596 | 72 | |
| 19 | 国立 宇都宮大学 | 経済学部 | 1,452 | 1,022 | 299 | |
| 20 | 国立 北澤大学 | 経済学部 | 1,581 | 1,211 | 212 | |

※印は大学院修了者を含んだデータ

協力/大学通信

大学TOPIC 4

【サッカー部女子部員】世界に挑戦! 山崎 円美 選手がなでしこジャパン選出!!

いつも温かいご声援ありがとうございます。

アルガルベカップ(3月2日~15日 ポルトガル)に出場する日本女子代表(なでしこジャパン)に、本学サッカー部女子部員の山崎 円美 選手(健康スポーツ学科4年、アルビレックス新潟レディース所属)が選出されましたのでご報告いたします。

以下は、山崎 円美選手のコメントです。

「国際親善試合(アルガルベカップ)のメンバーに選出され、本当に嬉しいです!同時に、私を支えてくださった多くの方々に感謝しています。特に本学では、多くの先生方や友達に支えていただき、サッカーと学業を両立することができました。『いつもありがとうございます!』という気持ちをピッチの上で表現し、日本代表選手として自分らしく一生懸命戦ってきます。サッカー選手として、そして1人の人間としても成長できるように頑張ります。応援よろしくお願いたします!」

※日本女子代表には、川村 優理 選手(平成23年度本学卒業生 アルビレックス新潟レディース→ジェフユナイテッド市原千葉レディース所属)も選手されており。詳しい情報は日本サッカー協会HPをご確認ください。



大学TOPIC 5

【看護学科】

在学生3名が駅構内エスカレーターで転倒した高齢男性を素早く救助したとして「小さな親切」実行章を受賞致しました。

本学看護学科在学生3名が駅構内エスカレーターで転倒した高齢男性を素早く救助したとして「小さな親切」実行章を受賞し、11月29日(木)贈呈式を挙行政致しました。

小さな親切実行章は公益社団法人「小さな親切運動本部」が全国から推薦された、人助けなどをした人を表彰するもので、今回受賞したのは、看護学科2年の吉田茜さん、佐藤夏生さん、星野夏実さんの3名です。

3名は10月7日の夜、JR新潟駅構内のエスカレーターに乗っていた際、後方から高齢男性が転倒し、右側頭部や右ひじから流血しているのを発見すると駅員の方から救急箱を借り、消毒と止血や呼びかけなど迅速に適切な処置を施しました。その後、警察に事情を報告し、男性は救急車で病院に運ばれ大事には至りませんでした。



新潟県小さな親切実行章贈呈の様子

受賞学生の御礼の挨拶

11月29日(木)に举行された贈呈式では、在学生を推薦していただいた新潟県警察鉄道隊隊長の小林修様より、表彰状・バッジを贈呈いただきました。



報道関係者の方のインタビューを受ける受賞在学生

鉄道警察隊長の小林様との記念写真

受賞した学生は、「人として当然のことをした結果なのでびっくりしたが、とても嬉しい。」「看護師になったらより多くの患者様に接することになると思うので、勉強を積んで今後も困っている人がいたら率先して働きかけたい」と感想を話していました。



看護学科長 塚本教授との記念写真

大学TOPIC 7

第12回全国障害者スポーツ大会岐阜清流大会へのコーチ参加報告

10月13日(土)～15日(月)、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催された「第12回全国障害者スポーツ大会岐阜清流大会」に陸上競技部の4年生5名が陸上競技の新潟県選手団(渡辺大晃選手、坂爪絵里奈選手)新潟県選手団(田村拓実選手、羽田智紀選手、堀友也選手)の陸上競技コーチとして帯同させていただきました。



大会会場の様子



新潟県選手団

新潟県選手団

コーチ5人は、大会前の8月、9月の練習会や合宿に参加し、新潟県、新潟市の代表選手と共に練習に励んできました。

大会期間中は選手の練習メニューの計画を立てたり、ウォーミングアップや競技の付き添いなどを行いました。天候にも恵まれ、新潟県は金7個・銀9個・銅1個、新潟市は金5個・銀5個・銅2個と両選手団ともに昨年より多くのメダルを獲得することができました。

>以下、コーチとして参加した陸上競技部員より

私たちは選手たちの陸上競技に対する情熱と専門知識に驚き、自分たちがただ陸上競技部にいるだけでなく陸上専門家として頑張らなければいけないと感じました。そして、大会期間中に競技だけでなく宿泊などで選手と生活を共にしていく中で、障害に対する理解を深めることができ、ますます障害を持つ方々と関わりたいと思いました。短い間でしたがコーチとして選手と触れ合うことができ、一生の思い出に残る素晴らしい経験でした。ありがとうございました。



コーチ陣

大学TOPIC 6

村山伸子教授が「第65回新潟日報文化賞(社会活動部門・個人)」を受賞致しました。



村山伸子教授(医療福祉学研究所 研究科長/医療福祉学専攻(博士後期課程)専攻長/健康栄養学科教授)が第65回新潟日報文化賞(社会活動部門・個人)を受賞致しました。

新潟日報文化賞は、新潟日报社によって新潟県の県勢伸長と県民生活の向上を目的として1948年度に制定され、新潟県の文化・産業などの発展に貢献した個人・団体を表彰するものです。

村山教授は、NGO日本・バングラデシュ文化交流会のメンバーとして、2009年度から開発途上国であり、調理を伴った温かな学校給食がなかったバングラデシュで学校給食のモデルづくりに取り組まれ、バングラデシュ初の学校給食システム導入に貢献されました。



さらに学校給食の調理は、住民が担当し、学校菜園で育てたカボチャを使用したり、家庭から米や野菜を集めフードバンクを行ったりするなど「自立」「持続可能」をテーマに掲げており、新潟県で推進する「地産地消」が取り組みのベースとなっております。

また、本学在学生も海外研修としてプロジェクトに同行し、現場でどのようなことを感じ、何が求められているかを考えるなど教育活動の一環としても高い功績を残しております。



今後は、バングラデシュの人々のニーズをデータで示し、政策に反映させられるよう取り組みを続けていかれる予定です。

大学TOPIC 8

【健康栄養学科】

北区農業委員会、北区洋菓子店ボンクールSAITOとの産学官連携による新商品スイーツ試食会を実施致しました。

健康栄養学科では、北区農業委員会協力のもと、区の耕作放棄地である畑を活用し栽培した「サツマイモ(品種・シルクスイート)」を、北区松浜にて洋菓子店を営むボンクールSAITO様と共同で商品開発することとなり、9月7日(金)、本学にて新商品試食会を実施致しました。



イベントで販売される「おいちーたると」

健康栄養学科の学生有志約40名(2・3年生)が、8グループに分かれ、1点ずつ、計8点を試作品として出し、その中で「意外性」「商品開発の工夫」「味としての完成度」などの選定基準から2点が商品化の候補として挙げられました。

協議の結果、タルトの販売が決定し、商品名は「お芋」と「チーズ」を掛け合わせた「おいちーたると」に決定致しました。

この商品は、10月13日(土)・14日(日)アオーレ長岡(長岡市)で開催される「大学は美味しい!!フェアin新潟」にて販売され、好評を博しました。



新商品試食会の様子



【国際交流】

10月18日～11月16日、国際協力機構(JICA)の要請を受け、生活習慣病予防に関する研修を実施。大洋州の6ヶ国から研修員7名が参加。



本学では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請を受け、10月18日(木)～11月16日(金)に渡り、フィジー・マーシャル・パプアニューギニア・ツバル・パラオの6カ国から7名の研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修を実施致しました。近年、大洋州では、生活習慣病による疾病・死亡率が著しく増加して、2005年には大洋州保健会議において生活習慣病の予防に関するプログラムの導入が決議されるなど、国家レベルでの対策が行われています。こうした状況を受け、独立行政法人国際協力機構(JICA)では、政府開発援助(ODA)の一環として、将来、各地域において生活習慣病予防の指導および対策計画の立案・普及を実践できる人材の育成を目的に「大洋州における地域保健での生活習慣病予防対策コース」を設置し、日本での研修を実施しています。

本学は、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、生活習慣病予防に必要な看護師、管理栄養士、運動指導、リハビリテーションの全てに関する教育・研修を実践していることから、大学として日本で唯一、研修実施機関として選定され、JICA受託事業として研修員の受け入れ及び学内外での研修を行っております。

昨年でフェーズI(3年周)が終了し、今年度はフェーズIIとして本学では4年目のプログラム実施となりました。今回の研修では、保健・栄養・運動・看護における様々な研修プログラムを実践致しました。

1週目のプログラムでは、研修員自身の研修事前健康診断が新潟リハビリテーション病院で行われた後、健康スポーツ学科の教員により健康状態の判定について講義が行われました。

2週目のプログラムでは、日本における生活習慣病の現状・予防対策とその効果について理解を深めるため、健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科の教員による講義の他、実際に学外へ赴き、

現地見学を通して実際に体感するという内容の研修が行われました。

3週目のプログラムでは、実践的な生活習慣病予防介入法とその指導方法を学習するため、健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科の教員による講義と実習が行われました。

4週目のプログラムでは、研修員が地域ベースの健診・保健指導(大人グループ)または学校ベースの健診・健康教育(子どもグループ)に分かれて自国での実施計画を立案し、運動と栄養改善のための教材作成を行いました。

5週目のプログラムでは、医療情報管理学科の教員により作成した生活習慣病予防プログラムのモニタリング、および評価の必要性と方法について介入プログラム計画を作成しました。また、研修初日に発表した各国の自治体の既存の計画に本研修をどのように位置づけるか、各国での実施と普及への戦略について説明が行われました。

最終日には、研修総括として各国の生活習慣病予防のプログラムと作成した教材について発表会が行われました。朗読式ではJICA北陸の友部支部長および本学山本学長より研修員7名へ修了書が授与され、その後、盛大な送別会が催されました。よさこい部のパフォーマンスでは研修員も参加して大きな盛り上がりを見せ、1ヶ月に渡る研修が幕を閉じました。

研修員からは、本研修で学んだ運動プログラムや健診プログラムの実施方法は自国の状況に大変有益であり、帰国後同僚に伝えるとコメントが寄せられました。また、日本について、衛生的・友好的であり、地産地消の新潟の食事は美味で栄養的であるという喜ばしいコメントが得られました。本学で学んだ研修を、是非帰国後の業務で活かしていただきたいと思います。



理学療法学科
フィリピン・サントトマス大学研修

2012年9月21日(金)から30日(日)まで、理学療法学科の国際交流事業の1つとして、フィリピン・サントトマス大学での運動解析ワークショップを実施致しました。本企画は本学の運動機能医学研究所との共同企画でもあります。また、サントトマス大学は400年の歴史を誇るアジア最古の大学で、4万人を超える学生が在籍しています。

本研修の目的は、1)サントトマス大学の理学療法学科および健康スポーツ学科の教員を対象として、ビデオカメラを用いた運動解析の手法についてワークショップを行うこと。2)サントトマス大学を舞台として本学学生の臨床実習ができるかどうかを探ることの2点です。参加者は理学療法学科の教員1名と4年生の学生2名で、学生はワークショップの助手という役割を担っています。

サントトマス大学では、機器を用いた動作分析をこれから開始しようとしているところで、その手はじめてビデオを使った動作解析をまず教員がマスターし、後期の授業では学生の教育用ツールとして、さらに研究手法の1つとして使用していただくことを計画しています。今回はサントトマス大学に既にある機材を活用し、それに最小限のハードウェアとフリーウェアを組み合わせることで動作解析を行いました。日曜日以外は午前/午後ともワークショップが開かれ、サントトマス大学の教員の皆さんの熱意に大きな刺激をいただきました。

さらに、サントトマス大学側のアレンジで、学生は市内の病院および施設(孤児院)の見学と、理学療法学科の授業への参加を行いました。病院での理学療法は、日本のものと大きな違いはありませんが、就職については学校のプログラムを終了後ライセンスを取得しても、そのまま理学療法士として就職ということは稀で、ボランティアという無給状態で一ヶ月程働き、その中から職場に最もフィットするものが雇われるというユニークなシステムです。孤児院での見学は、小児の理学療法が主でしたが日本で経験できるものとはかなり異なり、相当のインパクトのある経験になりました。また、授業参加の1つとして、解剖実習にも参加させていただきました。

9日間という短い滞在でしたが、観光的要素も兼ね備え、成長真っ只中のフィリピンという異国の文化に触れ、学生は大きな刺激を受けたようです。また、英語でのコミュニケーションについては、各種活動を通して、日常的なコミュニケーションには不自由がないレベルまで達することができました。

理学療法学科では、国際交流活動に力を入れてきましたが、学生訪問のレベルから、今後さらに教員間の双方向の学術交流、および学生の臨床実習へとアップグレードしていく予定です。



ワークショップに参加した教員のみならず



ワークショップの様子



国際ミニシンポジウム
「イギリス及び日本における連携教育の現状と課題」開催

2012年10月9日(火)、「イギリス及び日本における連携教育の現状と課題」をテーマに本学にてミニシンポジウムを開催致しました。

このミニシンポジウムに先立ち、10月5日(金)から10月8日(月)にかけ、神戸にて「チーム医療」「チームケア」に関わるすべての保健・医療・福祉系専門職のための国際学術集会ATBH VI(第6回多職種連携教育と協働実践の国際会議 All Together Better Health VI)がアジアで初めて開催されました。この学術集会にイギリスの Ipswich 市にある University Campus Suffolk の Mike Saks 学長および Brendon Noble 健康科学部長が参加されました。この来日の機会に本学へもご迎えし、イギリス並びに同大学の連携教育の現状等について発表いただくと同時に本学教員からも本学の連携教育の現状等について発表し、日英の連携教育に関する現状を踏まえ、連携教育を中心とした教育効果の向上に関する意見交換を行うことを目的として企画されました。

今回のシンポジウムは、全プログラムが英語で行われました。まず山本正治学長よりご挨拶をさせていただいた後、Mike Saks 学長の基調講演「The role of higher education in facilitating interprofessional and interdisciplinary working in healthcare I」をご発表いただき、続いて Brendon Noble 健康科学部長より基調講演Ⅱ「The role of higher education in facilitating interprofessional and interdisciplinary working in healthcare II」をご発表いただきました。また、本学からは永井洋一准教授(作業療法学科)が「The short-term effects of ILS on the students' perception, knowledge, and attitudes towards IPE」、粟生田博子助教(理学療法学科)より「Change of the attitude of physical therapy students after the attendance to the class at a special support school education」と題した研究発表を行いました。2つの発表に対しては Saks 学長、Noble 学部長から質問と的確なコメントが寄せられ、発表者にとっては貴重な機会となりました。全体を通して久保雅義教授(理学療法学科)の軽妙洒落な司会が堅苦しくなく、あたたかな雰囲気を作り、ソフトな雰囲気の中でシンポジウムを行うことができました。

※IPE(International Professional Education):専門職連携教育 ILS(Integrated Learning Seminar):連携総合ゼミ
当日は本学教職員計58名が参加し、日英双方の連携教育についての意見交換が行われるなど大変有益なシンポジウムとなりました。お二人のゲストの先生方も本学での滞在を非常に楽しんでくださったようです。

本学では、今後も、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、学部・学科の枠を超えた「連携教育」を推進し、チーム医療に対応した人材育成に尽力してまいります。



University Campus Suffolk の Mike Saks 学長、Brendon Noble 健康科学部長と本学山本学長、渡辺副学長との記念撮影

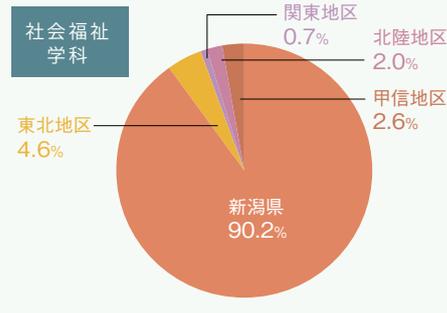
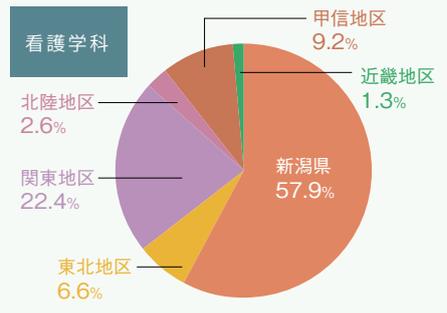
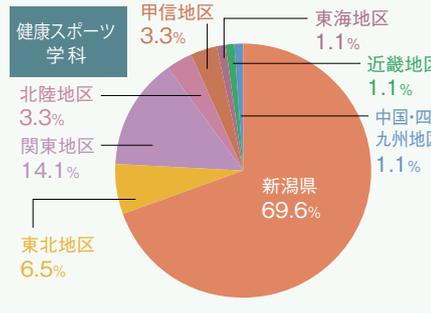
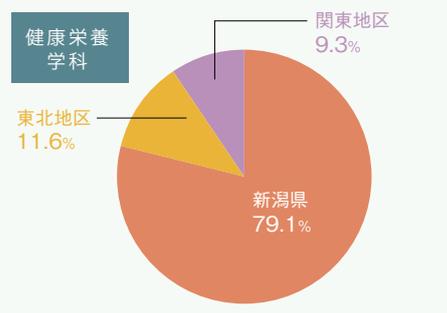
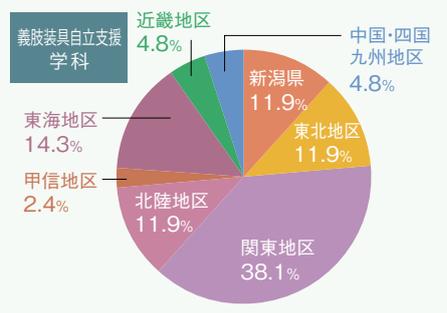
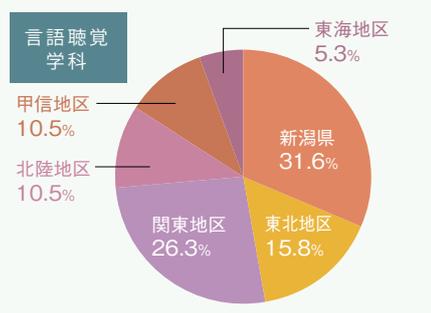
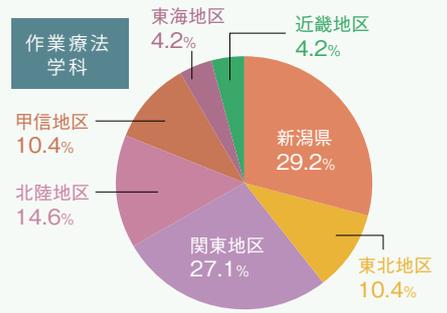
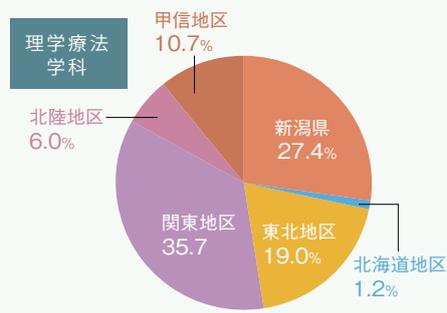
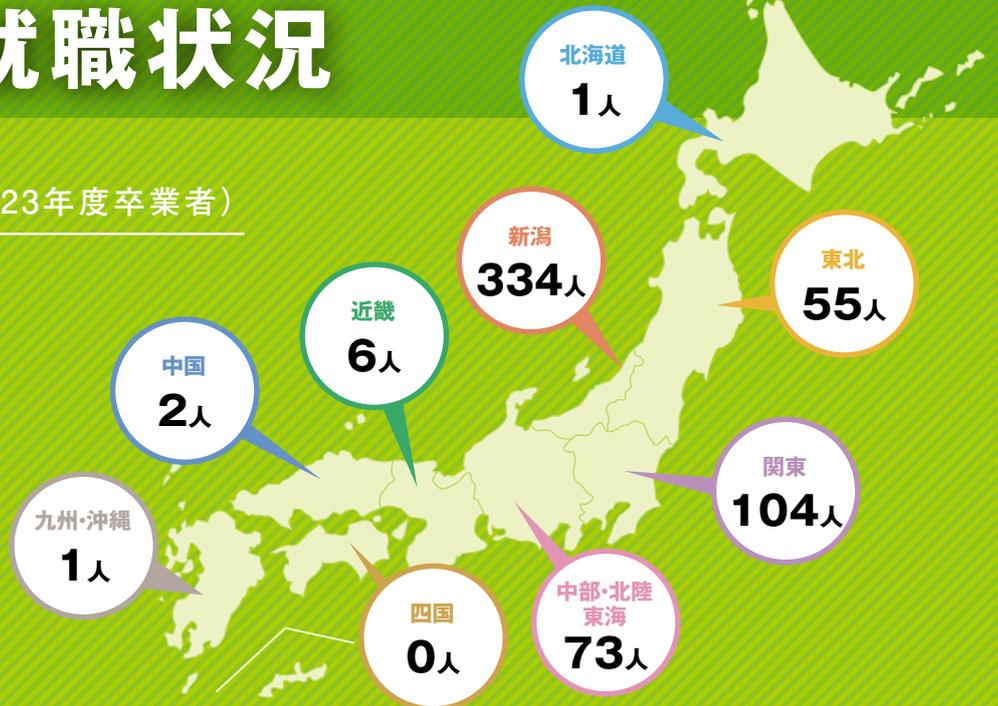


会場の様子

卒業生の就職状況

地域別就職者 (平成23年度卒業生)

| 平成23年度生県別就職先 | | | |
|--------------|----|------|-----|
| 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 |
| 北海道 | 1 | 新潟 | 334 |
| 秋田 | 3 | 長野 | 29 |
| 岩手 | 1 | 山梨 | 4 |
| 宮城 | 5 | 富山 | 18 |
| 山形 | 19 | 石川 | 11 |
| 福島 | 27 | 静岡 | 2 |
| 栃木 | 9 | 愛知 | 9 |
| 群馬 | 19 | 大阪 | 4 |
| 茨城 | 7 | 和歌山 | 1 |
| 埼玉 | 28 | 三重 | 1 |
| 東京 | 25 | 広島 | 2 |
| 千葉 | 7 | 福岡 | 1 |
| 神奈川 | 9 | | |



医療・保健施設

医療法人愛広会/医療法人越南会/医療法人宮仁会 猫山宮尾病院/医療法人恵松会 河渡病院/医療法人社団 しただ/医療法人社団愛陽会 三川病院/医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院/医療法人新成医会 総合リハビリテーションセンターみどり病院/医療法人崇徳会 田宮病院・長岡西病院/医療法人徳洲会 介護老健施設優和の里/医療法人立川メディカルセンター 柏崎厚生病院/社会医療法人桑名恵風会 桑名病院/社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会新潟第二病院/社団法人新潟県労働衛生医学協会/新潟県厚生農業協同組合連合会/新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院/独立行政法人労働者健康福祉機構 燕労災病院/日本赤十字社 長岡赤十字病院/医療法人将道会 総合南東北病院/医療法人青嵐会 介護老人保健施設グランドファミリー西目/つばさデンタルクリニック/医療法人社団清永会 矢吹病院/財団法人三友堂病院/社会福祉法人山形虹の会/庄内医療生活協同組合/医療法人昨雲会 飯塚病院/有隣病院/医療法人慈慧会 土屋病院/医療法人社団平成会/財団法人太田総合病院/財団法人湯浅報恩会 寿泉堂総合病院/社団法人巨樹の会 宇都宮リハビリテーション病院/日本赤十字社 大田原赤十字病院/医療法人社団日高会 日高病院/医療法人龍邦会 東前橋整形外科/社会医療法人輝城会 沼田脳神経外科循環器科病院/社団法人群馬県医師会温泉研究所附属 沢渡病院/医療法人のぞみ会 希望病院/医療法人財団明理会 春日部中央総合病院/医療法人社団武蔵野会 新座志木中央総合病院/医療法人瑞穂会 介護老人保健施設瑞穂の里/社会医療法人至仁会 園央所沢病院/社団法人巨樹の会 明生リハビリテーション病院/医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院/医療法人社団三水会 北千葉整形外科/社会医療法人社団木下会 千葉西総合病院/ワキ鍼マッサージ整骨院/医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院/医療法人社団瑞心会 杉並リハビリテーション病院/社団法人巨樹の会 小倉井リハビリテーション病院/医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院/医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院/土屋鍼灸整骨院/医療法人社団一志会 池田リハビリテーション病院/医療法人社団藤聖会 八尾総合病院/社会福祉法人恩賜財団富山県済生会 富山病院/富山県厚生農業協同組合連合会 医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院/白山石川医療企業団公立つき病院/医療法人財団加納君 山梨リハビリテーション病院/社団法人山梨勤労者医療協会 石和共立病院/医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院/医療法人南信勤労者医療協会 諏訪共立病院/社会医療法人財団慈泉会 相澤病院/長野県厚生農業協同組合連合会 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター/社会福祉法人農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター/中日新聞社健康保険組合 中日病院/医療法人清恵会 清恵会病院/医療法人愛仁会 亀田第一病院/医療法人関塚医院/医療法人恵愛会 大島病院/医療法人恵生会 南浜病院/医療法人社団e-メディカル e-メディカル整形外科/医療法人社団白百合 白根大通病院/医療法人新潟勤労者医療協会 介護老人保健施設おきの里/医療法人仁愛会 新潟中央病院/医療法人積発会 富永草野病院/医療法人立川メディカルセンター/財団法人温知会 津中央病院/社会医療法人嵐陽会 三之町病院/社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院/新潟医療生活協同組合 木戸病院/新潟県厚生農業協同組合連合会 阿賀野市水原郷病院/新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院/独立行政法人労働者健康福祉機構 新潟労災病院/社会医療法人北斗 北斗病院/医療法人松田会/社会医療法人明和会/みちのく政宗デンタルクリニック 山形診療所/医療法人社団緑愛会 介護老人保健施設かやきの丘/財団法人山形市健康福祉医療事業団 介護老人保健施設サニービル普及/社団法人鶴岡地区医師会/庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院/医療法人慈慧会 介護老人保健施設紫雲の里/医療法人社団三成会春日リハビリテーション病院/財団法人星総合病院/財団法人竹田総合病院/医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院/財団法人巨樹の会 新上三川病院/医療法人社団三成会/医療法人日望会 みどり病院/財団法人脳血管研究所 美原記念病院/社会福祉法人希望の家 希望の家療育病院/社団法人全国社会保険協会連合会 社会保険群馬中央総合病院/医療法人康麗会 越谷誠和病院/医療法人三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院/医療法人瑞穂会 川越リハビリテーション病院/社会福祉法人社幸会 行田総合病院/日本赤十字社 さいたま赤十字病院/医療法人社団協友会 柏厚生総合病院/社会医療法人社団木下会 鎌ヶ谷総合病院/独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院/社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院/医療法人社団秀臣会 わしざわ整形外科/医療法人平成博愛会 世田谷記念病院/八王子スポーツ整形外科/医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院/学校法人北里研究所 北里大学病院/医療法人社団アルペン会 アルペンリハビリテーション病院/医療法人社団秋桜 丸川病院/社会福祉法人恩賜財団済生会 富山県済生会富山病院/社会福祉法人富山県社会福祉総合センター 富山県高志リハビリテーション病院/医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター/社団法人石川勤労者医療協会 城北病院/医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院/医療法人笹本会/医療法人研成会 諏訪湖畔病院/医療法人道悠会 松本中川病院/茅野市・諏訪市・原村組合立 諏訪中央病院/長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院/医療法人社団青虎会 ツル虎/門外科・リハビリテーション病院/医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院/社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院/淀川キリスト教病院

福祉施設

社会福祉法人いじみの福祉会/社会福祉法人さくら園 知的障害者通所授産施設さくら工房/社会福祉法人愛宕福祉会/社会福祉法人岡山福祉会 デイサービスセンターおかやま/社会福祉法人恩賜財団済生会支部新潟県済生会 特別養護老人ホーム康和園/社会福祉法人魚沼福祉会 特別養護老人ホーム美雪園/社会福祉法人県央福祉会/社会福祉法人更生慈仁会 障害者支援施設十字園/社会福祉法人桜井の里福祉会/社会福祉法人小千谷市社会福祉協議会/社会福祉法人上越あたご福祉会/社会福祉法人上越福祉会/社会福祉法人信濃川令終会 特別養護老人ホーム南の郷/社会福祉法人新潟カリス会/社会福祉法人新潟市社会事業協会 特別養護老人ホーム有明園/社会福祉法人新潟慈生会 障害福祉サービス事業所 そら倶楽部/社会福祉法人新潟南福祉会 特別養護老人ホーム花見の里/社会福祉法人親和会精神障害者授産施設どう工房/社会福祉法人中越福祉会 みなの里

福祉法人中蒲原福祉会/社会福祉法人長岡三古老人福祉会/社会福祉法人長岡老人福祉会 特別養護老人ホームわらび園/社会福祉法人東蒲原福祉会 特別養護老人ホーム東蒲の里/新潟県若草寮/西蒲原福祉事務所 知的障害児施設やひこ学園/魚沼地区障害福祉組合/特定非営利活動法人コスモス活動所/社会福祉法人さくら福祉会 特別養護老人ホームさくらホーム山形/社会福祉法人心愛会/社会福祉法人聖霊病院 聖霊愛児園/社会福祉法人サン・ビジョン/社会福祉法人こすもすの会 精神障害者通所授産施設こすもす作業所/社会福祉法人とよざか福祉会/社会福祉法人茨塚福祉会/社会福祉法人岡山福祉会 ふれ愛の里さすり乳児保育園/社会福祉法人亀田郷声泊知的障害者通所授産施設ほがら福祉会/社会福祉法人健福福祉会 特別養護老人ホーム江東会/社会福祉法人広栄福祉会/社会福祉法人佐渡前浜福祉会 特別養護老人ホームスマイル赤泊/社会福祉法人十日町福祉会/社会福祉法人松波福祉会 特別養護老人ホームよねやまの里/社会福祉法人上越つくりの里医療福祉協会/社会福祉法人上越老人福祉会/社会福祉法人新井南福祉会/社会福祉法人新潟みずほ福祉会/社会福祉法人新潟太陽福祉会/社会福祉法人新潟南福祉会/社会福祉法人新潟南福祉会 特別養護老人ホーム黒崎の里/社会福祉法人仁成福祉協会/社会福祉法人中越福祉会 みなの里 知的障害者通所授産施設工房こしじ/社会福祉法人中東福祉会/社会福祉法人長岡福寿会 特別養護老人ホームまちな町/社会福祉法人奴奈川福祉会 ワークセンターにしらみ/社会福祉法人苗場福祉会/西蒲原福祉事務所組合/中東福祉事務所 知的障害児施設ふなおか学園 知的障害者更生施設ふなおか更生園/魚沼地区障害福祉組合 知的障害者入所更生施設魚沼更生園/社会福祉法人雄勝福祉会 特別養護老人ホーム平成園/社会福祉法人恩恵会/社会福祉法人青葉学園福祉会 赤羽保育園/社会福祉法人 上伊那福祉協会/社会福祉法人博悠会

公務(警察官・教員・行政)・学校・団体・組合

新潟県職員/新潟県警察本部/新潟市職員/燕市職員/新潟市立東特別支援学校/聖籠町職員/独立行政法人国立病院機構 西新潟中央病院/国立大学法人新潟大学 新潟大学歯学総合病院/学校法人中越学園 中越高等学校/にいがた南蒲原農業協同組合 柏崎農業協同組合/地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構/北茨城市職員/栃木県警察本部/学校法人自治医科大学 自治医科大学附属さいたま医療センター/学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学病院/東邦大学医療センター/公立大学法人横浜市立大学/みな穂農業協同組合/松本市立波田総合病院/学校法人 信学会 新潟県病院局/新潟県中央福祉相談センター/糸魚川市職員/南魚沼市職員/新潟市教育委員会/出雲崎町職員/独立行政法人国立病院機構 新潟病院/学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学/全国農業協同組合連合会新潟県本部/越後さんとう農業協同組合/飯豊町職員/国立大学法人山形大学 山形大学医学部附属病院/防衛省 防衛医科大学校病院/宇都宮市立中学校/中部教育事務所/学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学国際医療センター/独立行政法人国立病院機構 国立医療所多磨全生病院/独立行政法人国立病院機構 富山病院/地方独立行政法人長野県立病院機構/財団法人長野市保健医療公社 長野市民病院

企業

【福祉関連企業】株式会社はあとふるあたご/株式会社やさしい手/有限会社ケアフォレスト/フィットネスケアあけやき/株式会社サンウェルズ/アースサポート株式会社/株式会社パイラルケア/株式会社生活ケアサービス 空港西デイサービスセンター-栗/株式会社 孫の手ぐんま【委託給食】株式会社日本フードリンク/株式会社メフォス/日清医療食品株式会社 中部支店/株式会社LEOC【スポーツ関連企業】リファテック株式会社/新潟市総合型地域スポーツセンターとらい夢/愛ランドあざひ/財団法人新潟市開発公社/株式会社アクティクス/株式会社小柳建設/一般社団法人ふくしまスポーツプロモーション/株式会社大宮教育センター/スワン大教室イミッキングスクール/株式会社ソラケーン 伊勢原イミッキングクラブ/阿賀野市総合型地域スポーツクラブ/やろでばのみんで/特定非営利活動法人 希楽々/株式会社日本水泳振興会/一般社団法人新潟アルビレックス女子バスケットボールクラブ/有限会社オフィス中條 オアシススポーツクラブ/株式会社井手塾/有限会社福田総業 フットクラブエフ・スリ/株式会社ジェイアール日本スポーツ/株式会社エデュケーションリンクス スポーツクラブアポロ【義肢装具製造・販売】有限会社ジール/有限会社須田義肢製作所/有限会社サエヨシ補装具製作所/株式会社幸和義肢研究所/株式会社新一七/有限会社P.Oサポート/株式会社中島義肢製作所/有限会社サガミ義肢製作所/株式会社つくし工房/株式会社金沢義肢製作所/有限会社のさか nic事業部/東名プレス株式会社/川村義肢株式会社/株式会社きざく工房/株式会社田村義肢製作所/有限会社平賀義肢製作所/社会福祉法人福島更生義肢製作所/株式会社シュー・フォーラム 楽歩堂靴店/株式会社高崎義肢/有限会社吉田ビー・オー・サプライ/株式会社メディックス/株式会社武内義肢製作所/有限会社湘南義肢研究所/株式会社富山県義肢製作所/株式会社済世館/有限会社古瀬義肢製作所/有限会社朝日義肢製作所/株式会社マツトモ義肢【一般企業】アークランドサカモト株式会社/ササキ株式会社/ダムズグループ 株式会社第一実業/ネットノヨタ新潟株式会社/株式会社ミヤト野草研究所/株式会社クリのアオキ/株式会社シリウス/株式会社デリーはやし/株式会社マルタケ/株式会社開越共進/株式会社高助/株式会社三宝/株式会社村山電工社/原信ナルスホールディングス株式会社/司法書士法人東にいがた合同事務所/新潟ヨコハマタイヤ株式会社/新潟総合警備保障株式会社/中越運送株式会社/有限会社Butterfly Diner/有限会社バートナーズ/株式会社ジール/郵便局株式会社/株式会社セレスポ/株式会社大塚家具/東日本旅客鉄道株式会社/日本サミコン株式会社/カナエ医療器株式会社/セクスハイム信越株式会社/トヨタカローラ新潟株式会社/株式会社セキ/興産/株式会社エムアンドティ/株式会社クラージュ/株式会社ジネットク/株式会社ナレッジライフ/株式会社まる味食品/株式会社丸山自動車/株式会社三愛/株式会社清新ハウス/株式会社美松/三国コカ・コーポラリング株式会社/新潟トヨタ自動車株式会社/新潟空調株式会社/新潟防虫/日産プリンス新潟販売株式会社/有限会社サイフク/有限会社洗谷貴宝/株式会社東和商会/株式会社ナチュレル/株式会社光通信/株式会社谷口美装/中部ペブシコウ販売株式会社

1年間の活動報告

平成24年度学友会会長 健康スポーツ学科3年 濱田祐輔



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

大学生活4年間での多くの出会いや、勉学に励み将来の礎を築いた日々は、皆様の心に色濃く残る思い出になるのではないのでしょうか。

また、日頃より学友会の活動に多大なご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。皆様のご協力やご参加によって、第2回桃迎会や第12回伍桃祭、スポーツ大会、美化キャンペーン等様々な行事で多いに賑わいを見せて終えることができました。

今年度は、第12回伍桃祭のテーマでもあります「message」ということで「誰かに思いを伝える」ということを意識して1年間活動して参りました。今年で2回目となる桃迎会では昨年とはさらに形を変え、先輩達から新入生に向けて大学生活の楽しさや大学生活で出会う仲間達との絆などを、思い思いの表現で伝えることができました。また、フリーペーパー「RiRi」では、本学において夢を持って行動する等身大の新潟医療福祉大生に注目し、彼らの熱い思いや将来への希望などを多くの方に伝えることができたと思います。これからも先輩達から引き継いだ伝統を重んじ、後輩達へと伝えていきます。

卒業生の皆様はこの大学生活の中で多くのことを学び、経験してきたと思います。その貴重な経験を社会に出てからも思う存分表現し、多くの方に伝えていってください。私たちも先輩方のご活躍を心より願っ

ております。

最後になりますが、学友会は学生と共にこの新潟医療福祉大学を盛り上げ、よりよい大学にしていくために活動していきます。これからもどうか学友会を温かく見守って頂けたら幸いです。また、近くに来られた際、伍桃祭などのイベントの際には、是非お顔を見せて頂きたいと思っております。

伍桃祭を終えて
第12回伍桃祭(大学祭)報告

第12回伍桃祭実行委員長 臨床技術学科2年 阿部 拓也



今年の伍桃祭のテーマである、「message～伝えたい、今の想い～」には、友人・家族・諸先生方・地域の方々など、とても多くの人に支えられて生活している私たちにとって、どんな時もお互い支える人がいるから、自分の夢に向かって頑張れるという感謝の想いを、この伍桃祭をきっかけに伝えて、かけがえのない思い出にしたいという願いを込めました。

当日は、FLOWのライブ、池谷幸雄さんの講演会、部活・サークルによる発表、模擬店、Mr.&Ms. NUHWコンテスト、学科対抗パフォーマンス、バルーンアート、子供向けアトラクションなど盛り沢山のイベントを行い、体育館や大講堂から溢れるほどの人にご参加頂きました。昨年に引き続き、地域密着型の大学祭ということに重点を置いて企画しており、今年は過去最高の来場者数を更新することができ、地域の方々をはじめ、多くの人たちと一緒に、最高に盛り上がる楽しい伍桃祭として開催できたと思います。

最後になりましたが、無事に伍桃祭を終えることができたのも、学生や教職員の方々をはじめ、地域の方々や企業の方々など、多くの方にご協力して頂いたおかげです。そして、一緒に企画・運営をしてくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝いたします。ありがとうございました。



硬式野球部



硬式野球部は平成25年4月より強化クラブとして新設されます。

新潟明訓高等学校野球部で29年間指導され、夏の甲子園大会ベスト8の指導実績のある佐藤和也監督の指揮のもと、全日本大学野球選手権、明治神宮野球大会の全国大会出場を目標に人々に夢や感動を与えられるようなチームづくりを目指します。野球を通じて、心身を鍛え、物事を探究し、責任を持って行動ができる人物の育成を目指します。

近年、新潟県の野球は、高校野球・社会人をはじめ、全国大会での活躍が目覚しくなっています。しかし、新潟県の大学は、硬式野球部が少なく、大学野球があまり浸透していません。大学野球を盛り上げ、新潟県の野球発展に貢献できるよう、小学校から社会人が繋がる活動を目指します。また、関連病院の新潟リハビリテーション病院と連携し、野球を断念しなければならないような重大な障害の予防や故障を繰り返さないための動作改善の研究など医療系総合大学の特色を活かした取り組みも行っていきたいと考えています。

硬式野球部の練習施設として、第8駐車場奥の北側用地に夜間照明設備を備えた硬式野球グラウンド(両翼101m、センター120m、全面土)の建設を平成25年3月末の完成予定で進めており、全国トップレベルの環境のもとで、練習を行うことが可能です。

新潟医療福祉大学の一員として誇りを持って活動してまいりますので、同窓会員の皆様、是非、応援よろしくをお願い致します。

硬式野球部準備室担当 大矢真史

女子バレーボール部

元デンソーエアリービーズ選手で、ユニバーシアード等国际大会を経験した濱野礼奈監督のもと、平成25年度より強化クラブとしてスタートします。まずは北信越でトップになることを目指し、全日本インカレで勝ち進んでいけるようなチーム作りを目指します。また、セカンドキャリアに活かせる経験を積み、自分の力で未来を切り開いていける人材を育成します。現在、女子バレーボール界では高校卒業後Vプレミアリーグに進む選手が主流となっています。しかし、大学でスポーツを学び、資格を取得し、なおかつ競技スポーツとして日々鍛錬することは、必ずプレーにおいても長い人生においてもプラスとなります。大学バレー上位常連校だった経験を活かし、自ら考え、行動できる選手の育成に力を入れていきたいと思っています。そして、誰からも応援していただけるような明るくさわやかな選手・チーム作りを目指します。ご声援の程よろしく願いいたします。

女子バレーボール部監督 濱野礼奈



ダンス部

平成25年度から新設の強化ダンス部では、独自のテーマ、音楽、振り付け、衣装など、様々な要素によって創りあげる創作ダンスを主要内容として活動します。ゴムのように弾み、鞭のようなしなやかさを求め、時に力強く、時に繊細にと、動きを洗練させていく過程で表現の深みを追及していくような探求心、仲間と語り合いダンス作品を構築していく中で磨かれるコミュニケーション能力を、チーム集団の中で揉まれながら身につけていくよう育成します。

練習施設としては、鏡やレッスンバー、音響・照明機器を備えたダンススタジオにて、じっくりと時間をかけてトレーニングに励むことができる環境です。この施設ではダンス部の練習場として使用するほか、発表の場として、学校体育でのダンス指導の場としての利用も予定しています。日々の練習では月曜日～土曜日、毎日様々なジャンルにまたがる多様な身体づくりに

取り組みます。全国各地から大学生が集う大会やコンクールに挑戦したり、定期的に授業や地域活動と連携した合同練習・合同発表を開催することで、ダンスの輪を広げていきたいと思います。

写真は平成24年度に参加した、在学生の有志6名による「Artistic Movement in TOYAMA(創作ダンスコンクール)」:9月(右)と「秋田モダンダンスコンクール」:12月(左)の様子です。新潟医療福祉大学として初めてのコンクール出場でした。今後も精力的に頑張っていきますので、温かく見守っていただきたいです。ご声援のほど宜しくお願いいたします!

ダンス部監督 中島由梨



サッカー部

全国で!世界で! 強化サッカー部の挑戦!

現在、強化サッカー部の学生は、男子サッカー部・女子部員(アルビレックス新潟レディース所属)・女子サッカー部として競技会に出場しています。

今年度、男子サッカー部は、田中泰裕(元アルビレックス新潟 平成24年度卒業生)、林 遼太(平成22年度新潟医療福祉大学大学院修了)のもと、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント、全日本大学サッカー選手権大会出場(3回目)を果たすことができました。また、個人では、中田大貴選手(健康スポーツ学科2年)が東海・北信越大学選抜選手としてデンソーカップチャレンジサッカー島原大会に出場しました。



女子部員では、山崎円美(健康スポーツ学科4年)、川村優理選手(平成24年度卒業生)が「なでしこJAPAN」の一員としてアルガルベ杯に出場しました。

今年度創部の女子サッカー部は、皇后杯全日本女子サッカー選手権大会、全日本大学女子サッカー選手権大会出場を果たすことができました。また、個人では、高橋美夕紀、佐藤智奈美、目黒真里奈、比嘉ちなつ、堀越香央利、甲斐そらみ、深沢美希、伊藤萌野花 選手(全て健康スポーツ学科1年)が新潟県国体選抜選手として岐阜国体に出場し、5位という成績を修めました。

このように、強化サッカー部の学生は、全国・世界の競技会で活躍しています!授業と日々ハードなトレーニングを両立させることは簡単なことではありませんが、自分自身や仲間を信じてこれからもしっかりとトレーニングを積み上げていくことを期待しています!

男子サッカー部 主将 健康スポーツ学科4年 坂井満月



陸上競技部

今年度の陸上競技部の活動実績は非常に充実したものでありました。まず、初めに5月に福井県で行なわれた北信越学生陸上競技対校選手権大会で男女総合優勝、また、その後の全日本学生陸上対校選手権大会に数多くの選手が出場権を獲得することができました。また、女子駅伝チームが全日本大学女子駅伝に出場し、国体にも出場するなど全国に「新潟医療福祉大学」の名をアピールすることができました。しかし、一方で全国大会に出場しても戦える選手が少なく不本意な結果で終わってしまい、力不足を痛感させられました。今年度は北信越学生陸上競技対校選手権大会での男女総合優勝の連覇と、より多くの選手が全国の舞台に出場し、活躍できるよう飛躍した1年にしたいと思います。これからも、新潟医療福祉大学陸上競技部の応援よろしくお願い致します。

陸上競技部主将 健康スポーツ学科4年 富樫弘平



水泳部



2012年度、水泳部は創部8年目を迎え、私達4年生は最後のシーズンとなり、冬の泳ぎ込みや大会など新潟医療福祉大学水泳部として過ごす時間の全てが「最後」となりました。4月には新たな若い力が加わり、今シーズンのチームスローガン「躍進」という言葉を胸に総勢44名で9月に行われる日本学生選手権を見据え、どんな苦しい時もチーム全体で支え合い、切磋琢磨し乗り越えてきました。日本学生選手権の予選会として7月に行われた中部学生選手権では、昨年に続き男女とも総合2位を獲得し、男女揃って日本学生選手権の団体出場権を獲得することができました。そして、9月に行われた日本学生

選手権では、創部以来初めてリレー種目で点数を獲得することができました。400mメドレーリレーで高田恭兵(健康スポーツ学科2年)、後沢秀至(同1年)、今井恭太(同1年)、松井浩亮(理学療法学科1年)のメンバーでB決勝に進出し、さらに、50m自由形で松井浩亮(理学療法学科1年)がB決勝に進出することができ、新たな歴史を作ることができました。惜しくもチームで立てた目標には達成できませんでしたが、この新潟医療福祉大学水泳部に入り、尊敬する監督・コーチの下で偉大な先輩方や大好きな仲間達、支えてくださるたくさんの方々のおかげで後悔なく水泳を終える事が出来ました。

また、新潟県内の大会で競技役員など大会運営のお手伝いをしたり、地域の小学校にボランティアで水泳指導に行くなど、水泳を通じた地域貢献も行うことができ、良い経験をたくさん積むことができました。

これからも水泳部一同更に上を目指して頑張りますのでご声援よろしくお願い致します。そして、本当に4年間ありがとうございました。

水泳部監督 下山好充



男子バスケットボール部



本学男子バスケットボール部は、大学強化クラブに指定され(H17年度)本格的に強化を始めた当初から、県内外のバスケットボール関係者及びバスケットボールファンに注目され、優秀な成績を収めてきました。

今年度の主な戦績は、北信越大学バスケットボール春季リーグ戦1部リーグ3位。甲信越大学バスケットボール定期戦大会 準優勝。新潟県学生

バスケットボール選手権大会 準優勝です。

昨年と同様に新潟県、新潟市ミニバスケットボール選抜チームのクリニック(講習会)に積極的に参加し、選手と指導者の皆様方から称賛の声を頂きました。また、国際バスケットボール競技会にも参加し、台湾成功大学と親睦を深める一環として良い機会となりました。新しい世界や新しい文化と触れ合い、技術力の向上はもちろんのこと学生の人間の成長に寄与できたと確信しています。

男子バスケットボール部の保護者の皆様方、大学関係者、卒業生の方々から多くのご声援とご協力を頂いています。この場を借りて御礼申し上げます。

男子バスケットボール部監督 高沢文隆



女子バスケットボール部

監督3年目、部員は4年生4名(マネージャー2名)・3年生6名・2年生(マネージャー1名)・1年生10名(マネージャー1名)の25名で、新しい戦力がたくさん加わりスタートした。

今年も伝統を繋ぎ、7年連続のインカレ出場を手にしたことは、本当に喜ばしく思っています。

今年度もWJBLの新潟アルビレックスBBラビッツと日頃から合同練習を行い、日本のトップレベルの選手のプレーを身体で感じ、またバスケットボールに対する姿勢や熱意を間近で感じることができるという素晴らしい練習環境で活動できたことを嬉しく感じています。

また今年度新たに、夏の北海道合宿が始まり約1週間、心身共に疲労の中で、共に励まし合い、乗り越えられたことは選手自身、自信になりました。

今年1年、試合・遠征など密度の濃い厳しい環境を乗り越えられたのも、

年間成績結果報告(4月~12月までの戦績)

| | | |
|-----|--------------------------------|------------------------------|
| 4月 | 第66回近県バスケットボール選手権大会 | 準優勝 |
| 5月 | 第46回世本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦大会 | 優勝 |
| 7月 | 第9回新潟カップバスケットボール大会 | ベスト4 |
| | 第57回新潟日報杯争奪バスケットボール大会 | ベスト4 |
| 9月 | 第44回甲信越大学バスケットボール定期戦大会 | 優勝 |
| 10月 | 第45回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選 | 優勝 インカレ出場権獲得 |
| | ●1回戦 | 新潟医療福祉大学 126-31 清泉女学院大学(長野県) |
| | ●2回戦 | 新潟医療福祉大学 81-43 新潟青陵大学(新潟県) |
| | ●決勝リーグ | 新潟医療福祉大学 74-55 新潟経営大学(新潟県) |
| | | 新潟医療福祉大学 74-62 信州大学(長野県) |
| 11月 | 第63回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ) | 1回戦敗退 |
| | 新潟医療福祉大学 | 67-87 松蔭大学 |

多くの先生方の支援のおかげです。一人ひとりに合ったトレーニングの処方方や念入りにケアを行ってくださったり、時には相談にもって頂き、多方面から手厚いアフターを頂戴しました。感謝の気持ちでいっぱいです。

また来年度も常に目標に向かって努力を惜みず、チーム一丸となって頑張っていきたいと思っています。

上記に24年度大会成績結果を添えて活動報告とします。

女子バスケットボール部主将 健康スポーツ学科3年 佃悠帆

英語クラブ

ご卒業を迎えた第9期の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

英語クラブは、海外研修の準備のため、留学のため、英語が好きだからなど様々な目的の学生が集まっています。活動は、みんなが関心のある記事やテーマについて戸出先生とSurma先生と共に英語で話し合いを行っています。とても雰囲気良く楽しいです。日本人が苦手と言われているスピーキングやヒアリングも回数を重ねること部員達も自然と慣れていきました。2年前にはタイから来た留学生と共に活動を行いました。特に、彼女の研究テーマのVICONIについて教わりました。英語クラブの活動を通して、今世界で起こっている事柄や他国から見た日本について知る良い機会でもあります。英語クラブや自己学習を通して、実際に部員の大半が海外に行きました。英語を学び、他の国についてもっと興味を持つことで、行ってみたいという気持ちに繋がると思います。

来年度は、新しいメンバーで今以上に活動日数が増える予定です。現在は人数が少ないですが、たくさんの方で集まれば良いと思います。

代表 義肢装具自立支援学科3年 野坂知也



書道部

私たち書道部は去年立ち上げたばかりの部活です。ですが現在18名で毎週火、水、木曜日に自由に楽しく活動しています。活動場所は、キャンパス内の講義棟にて書道の基本的な書体を練習したり、各個人の書道課題を練習したりしています。今年の伍桃祭では、部員一同力を合わせて横8メートルにわたる巨大なパフォーマンス作品を制作しました。初めて挑戦したため、けれど“上手”とは言えない作品とはなりましたが、エネルギーの溢れる良い作品が出来たと思います。また、今年度はボランティアの活動もしました。障害者の方と一緒に小作品をつくったり、特別養護老人ホームで毎月行われている習字教室にて、高齢者の方が書くことをサポートしたりしました。書道部は部員同士がとても仲が良く、休憩時間には漫才のような会話が飛び交ったり、学年の垣根無く笑いあったりとてもアットホームな部活です。新学期からの活動は活動場所を畳の部屋へ変えて、更に集中して書に取り組み、書大会実績等を残せるよう活動していきたいと考えています。

代表 社会福祉学科2年 岡田真理



大学院 新潟医療福祉大学 医療福祉学研究所

第9期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして同窓会の皆さん、お元気ですか？大学院が設立され今年で9年目を迎えます。これまでに大学院で学んだ皆さんは、より高い専門知識を身につけ、それぞれの現場でさらにご活躍のことと思います。

本学大学院では、社会人の方も通学しやすい昼夜開講制に加え、長期履修生制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。キャリアアップを目指している方、少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。



さらに高度な専門知識や専門技術、問題解決能力を習得し、次代の保健・医療・福祉・スポーツ分野を担う、研究者・指導者・高度実践専門職業人を目指す。

■ 修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、**入学金半額(10万円)免除**
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修制度(修士:最長4年、博士後期:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(長期履修は一部対象外)

■ 各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学援助奨学金(2年時に15~20万円を給付)

*資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで。 TEL:025-257-4455(代) FAX:025-257-4456 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp

注目

Student Voice



保健学専攻 義肢装具自立支援学分野2年
松矢 晃

私は義肢装具士として週4日の勤務に加え、週に1日ティーチングアシスタントとして学部の授業の補助をしながら、大学院で知識を身につけると同時に、制作・教育技術を磨いています。忙しいながらも充実した毎日です。修了後は大学院で得た知識を臨床に活かせるように、さらに深く掘り進めて生きていきたいと考えています。

同窓会ホームページのお知らせ

皆さん、同窓会ホームページをご覧になっていますか？

母校や同窓会の最新ニュースは日々更新されています。また、活躍している卒業生を紹介する「卒業生は今!」や、「こころに届くいい話」は毎月10日頃に更新をします。是非、定期的にご覧ください。また、同窓生の方に役員が寄稿のお願いをしております。役員から依頼があった際は、ご協力をお願いいたします。



会員情報・住所変更届のお願い

住所・勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。

また、同窓会に関するご意見・お問い合わせ・投稿は、

E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会サイトについて(会員情報・住所変更届出)

http://nuhw-dosokai.jp/

編集後記 Hennyu-kouki

あっという間の4年間。今春に卒業したばかりの9期生の皆さんはこのように感じているのではないのでしょうか。私事ですが、本学同窓会支援室の担当になったのが2009年春でしたので、まさに9期生の皆さんとともに歩んできたこととなります。同窓会活動は皆さんからのアイデア、ご意見をいただきながら推進していきます。Eメールやfacebookなどで、どしどしメッセージをお寄せください。今後ますます活発化させていただきますのでよろしくお願いいたします!

(同窓会支援室 加藤 裕之)

新潟医療福祉大学同窓会

問い合わせ先: 新潟医療福祉大学 事務局内 同窓会支援室

- 新潟市北区島見町1398番地
- メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp
- 電話番号 025-257-4455